

学園天国

3年乙組銀八先生 銀八 × 神楽 ONLY

FOR ADULT ONLY





学園天国

3年Z組銀八先生 銀八*神楽 18禁アンソロジー



学園天国

3年Z組銀八先生 銀ハ×神楽onlyアンソロジー

坂入太郎
萩下いつき
由宇
旭ピオ
ケイ
サイトーマムム
橘ロツテ
内橋薫
ヒツ



マヨ

ヒガシエリコ

告清直

ぴょん

主宰*坂田あかり

口給*さく

カット協力*麦ちやこ

敬称略



神楽ちゃんの勝負ブルマ

坂入太郎



ガキと一緒にじゃ
ありがたみ
ありません



何もしねえよ

何するつもり
アルカ!!

女子生徒と
二人きり
アルヨ!!



何してるネ

ここ涼しいし

サボリか!!

お前もか!!





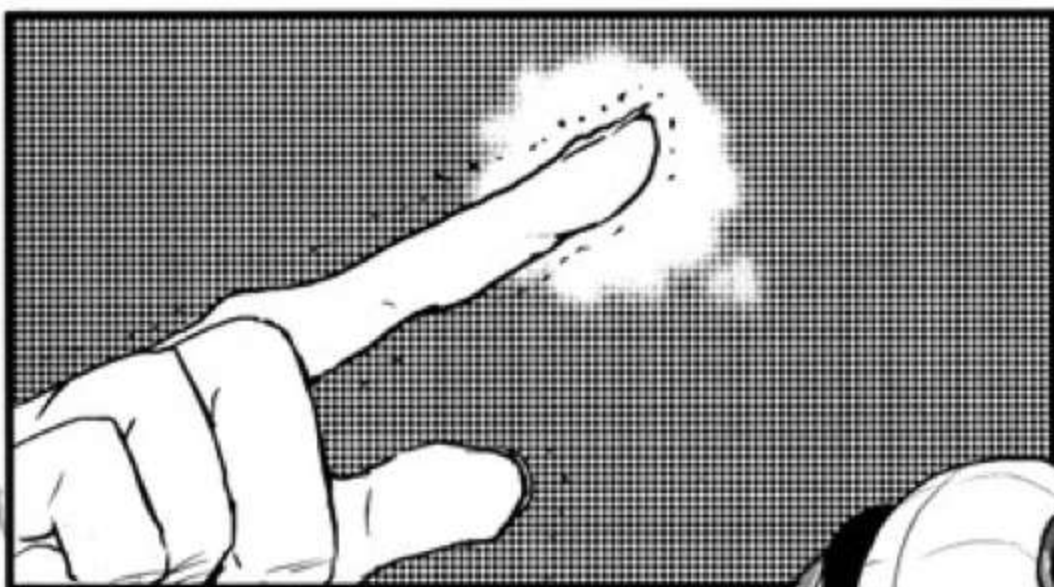
何こいつ誘ってんの？

誘ってんのか？

ガキが何色気づいて…



ストップ



ストップ!!



アレエエエエ!?
手が勝手にイイイイ

オイオイオイ
まずいだろオオオ



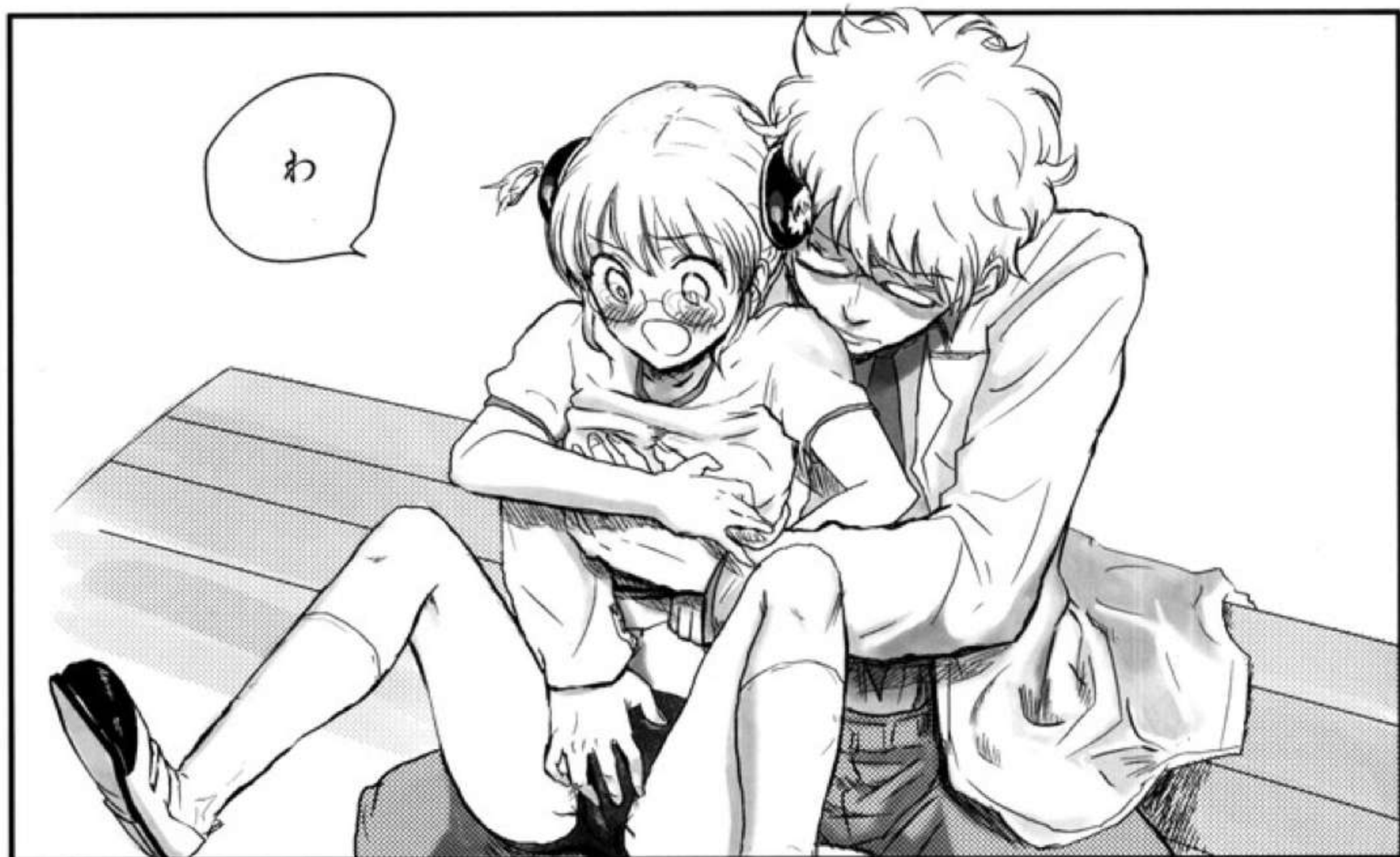
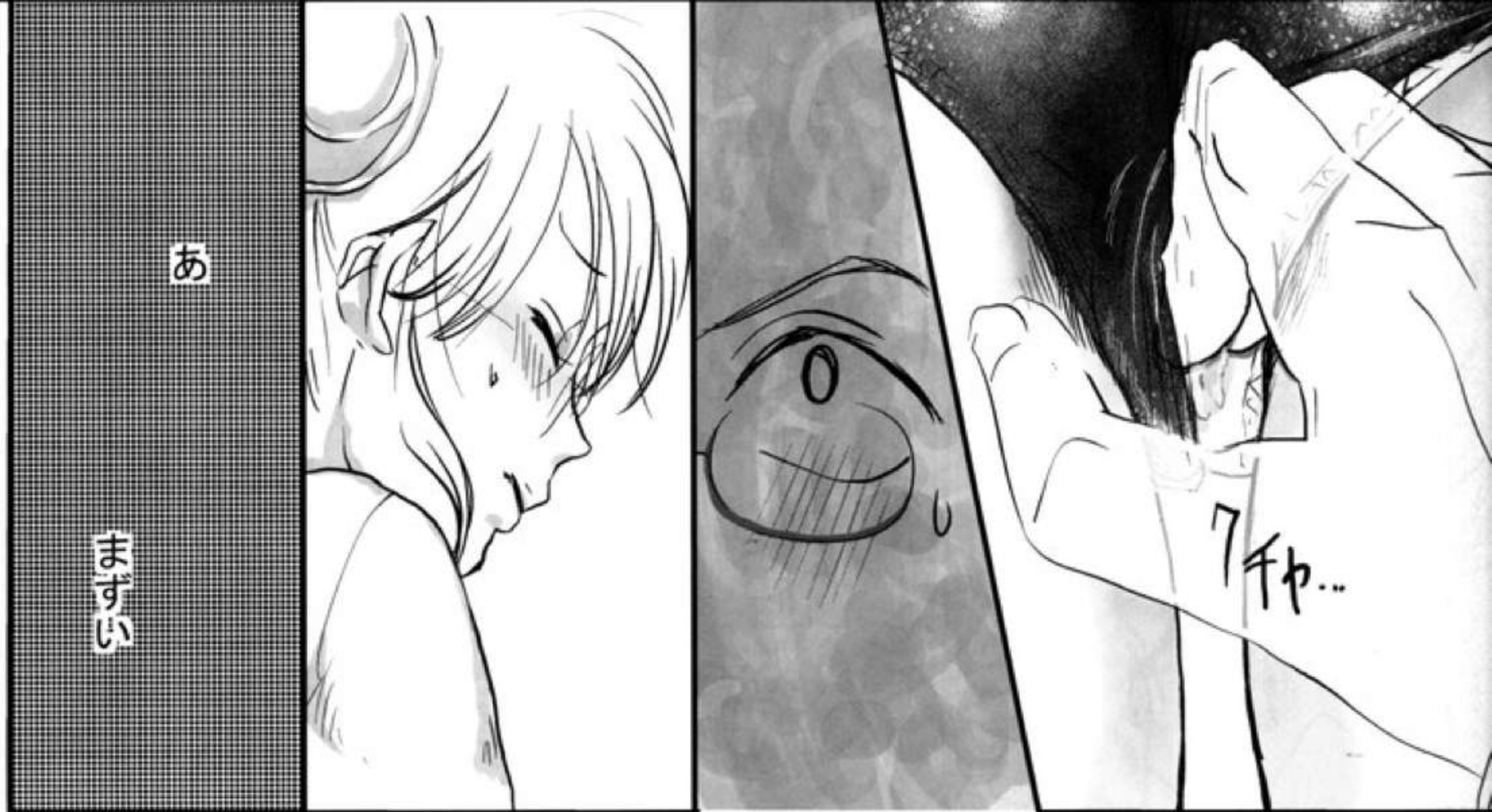
ストップ



不可

効力…









神楽あなんかぞ
ひっかかてんぞ

うっさいネ

あっ...

...んっ

わろわろわろ

...あ

ああ...

ん

ハア

神楽ちゃん
乳首弱いのか?

く=yく=y
く=y
く=y

く=y
く=yく=y

は
は

ん!

わわわ

わ

せんせ
先生

ちゅ

んんん

かぐ
横な
って

ん...

もう

もお
取っ
て
ブ
ラ
め
て
ヨ
欲
し
い
ヨ
銀
ち
や...

はあ...

スロ...

キ...

あ

あ

もじ

すろ

アあ

はあ...

あ

んっんっんウ...

もん

あ...あ

ちや...

きや...

濡れすぎ

あ

わろ

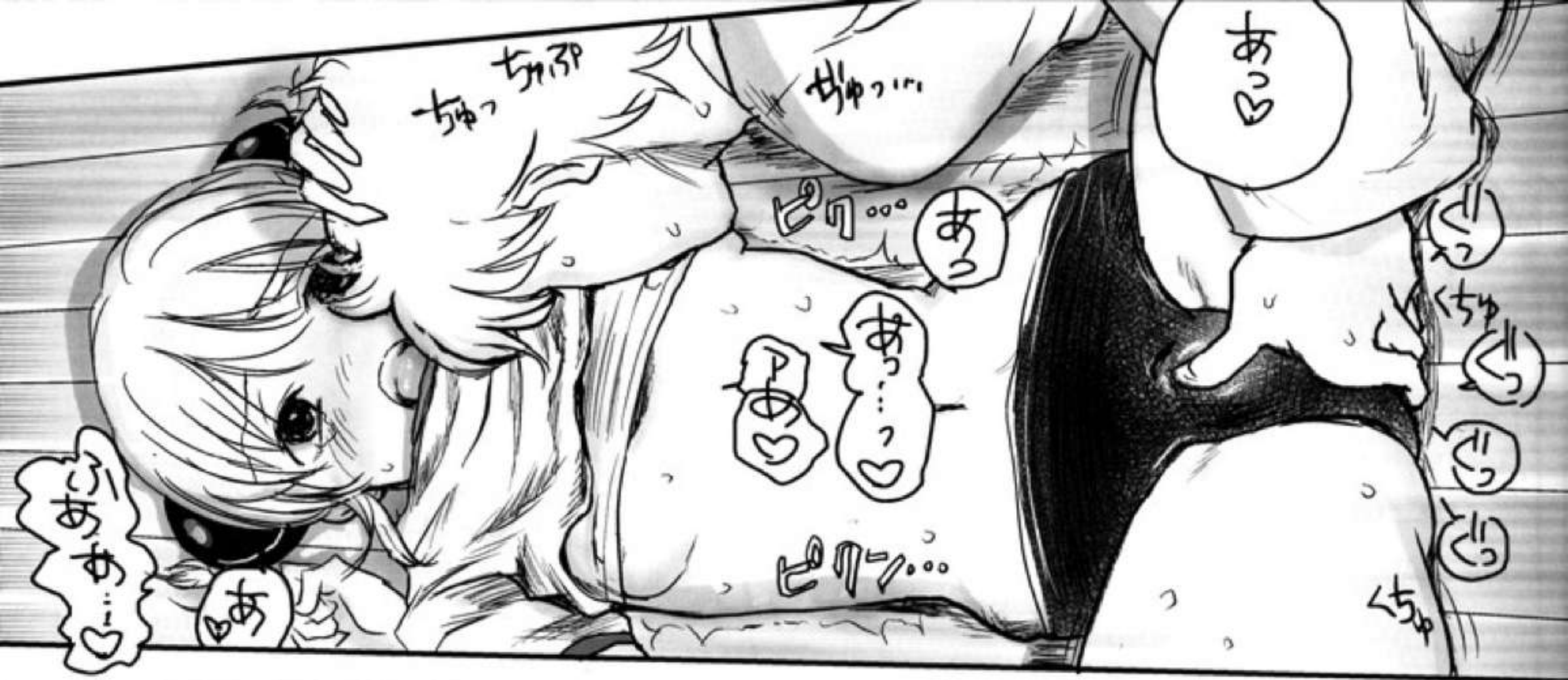
あ

びん

れろ

やあん

ト...







…あつ

ん

あん

あつ



…アツ

あ

あああ…

すげえキツイ…



ハア

アツ



まって

ん?

おっばい…

こすれて…

ズッ、ズッ、ズッ、ズッ

気持ちいいよ
神楽 もう、先生



くわ

くわ



ちが

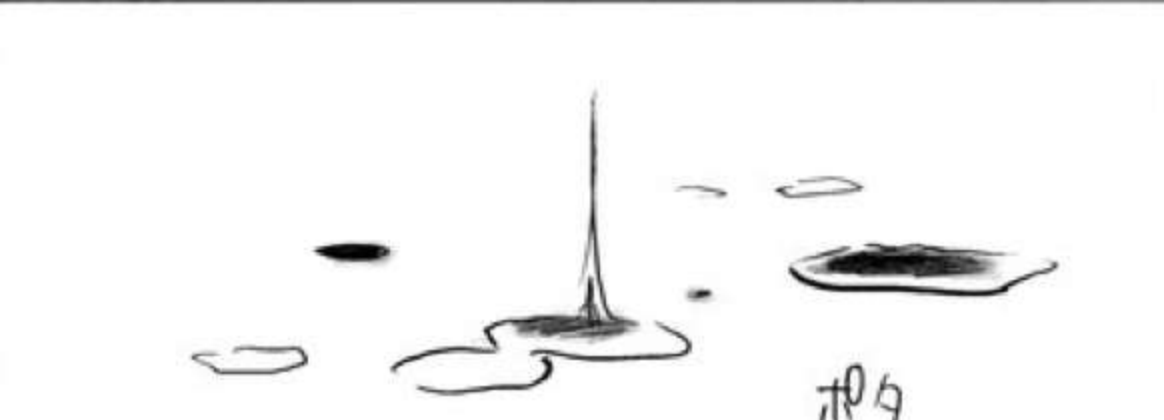
気持ちいいの？



きん

きん

や、アル
駄目、駄目
だめヨ





無理

ももう
出来ないアル
やめるネ

コホ

ヒン

しりり

しりり

びしょ

あ...

あ...



銀ちゃんあん...

うぎや...

うぎや

銀ちゃん?



ん?

ふあ



気持ちいいか?

はん

あ

神楽...



銀...ちや...ツ

私...

そんなに先生のこと好きか



ズナ
ズナ
ズナ

ヤーッ
あッ

こんなに腫らして

銀ちや...まお
もう変ア...!

ここ
気持ちいいだろ

腰動いてんぞ
神楽

あ...ッすげえ締まる

あッ
はあ...

ズナ
ズナ

神楽
先生もイキそ...



神楽が締めるから出すよ

あ

だめだ 神楽ん中 すごい気持ちいい

あー あー

あ

あ

あ

あ

あー

あ

あー あー

あー

あー

あ

びしょ

あ

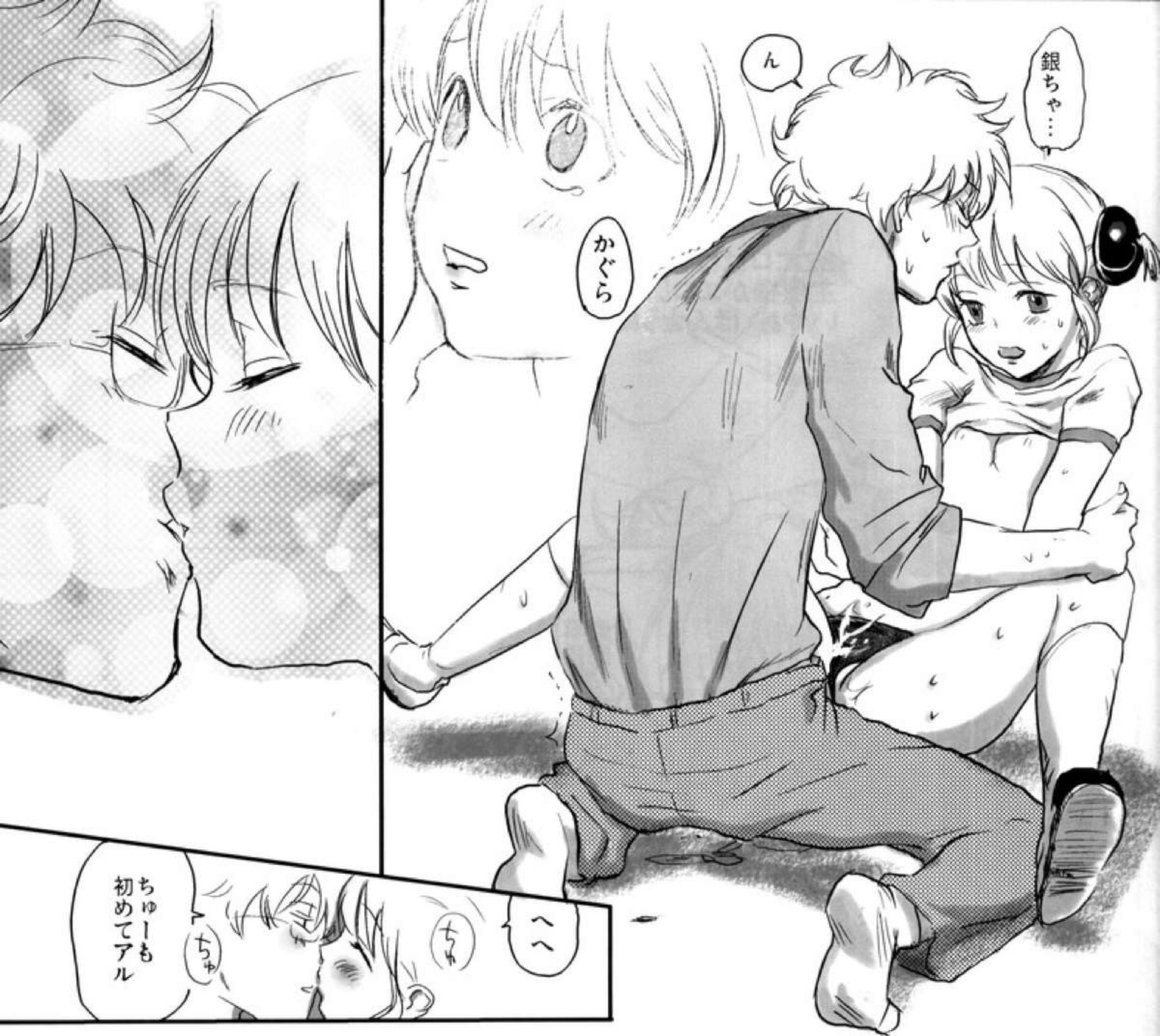
あ

あ

あ

あ

あー あー あー



銀ちゃ...

ん

かぐら



ちゅーも
初めてアル

ちゅ

ちゅ

へへ



ぎ
銀ちゃん
もう無理アル

神楽ちゃん
あと一回だけ

ヤーヨ!!

や...



あっ

アッ

いっ

アッ



アッ

...

銀ちゃんの
ハカアアア
完

アンソロジー発行おめでとうございます

3Zエロははじめてです
主催様がエロいのでエロがんばりました！
いやあ ほんとうに、銀神って、いいものですね。

坂入太郎

<http://sakairigejigej.jp/>

銀神



神楽ちゃんさー

頼むからソレ
やめてくんない？

スイツキは
思わぬ所で入る
萩下いつき

スカートの下の
ジャージ？
コレ楽アルヨ

股開いたって
平気ネ！

バカヤロー

お前は男のロマンを
台無しにしてるんだぞ
大体女の子が股開くとか
言っちゃいけない

ヒッ？
ムム脱ぐ？

…わかったアル

ウン

するるる

あやべ

ムムムム



好き







あーい

す

あーい



うん...うん...

うん...うん...

うん...うん...

...うん

うん...うん...

うん...うん...

うん...うん...

うん...うん...



で...出る
神楽...

うん...うん...

うん

うん

うん

うん

うん

うん

うん



もう…

制服しわくちゃ

パンツも汚れちゃったアル…
銀ちゃんのバカ



キス♡

じゃあ次は
ブルマ
体操服でヨロシクね

じゃあの意味が
わかんねーヨ

お前の頭の中
そんなんばかりか!!!

ニの
教師
!!

END

3Z銀神アソリロジー 発行おめでとうございます！

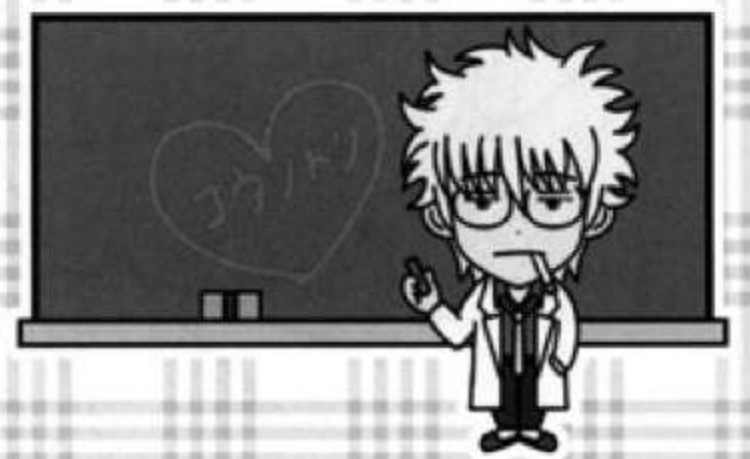
こんな涎出まくりのアソロに参加する事が出来て本当に幸せです。
その反面、実は初めてのエロ漫画なんで不安がいっぱいでしたが、
描き始めるとこれが楽しくて楽しくてw
反省点は山のようなのですが、大人の階段を一段登れた気がします。

あかりん、声かけてくれて本当に本当にありがとうございました！
3Z銀神好きの皆様は幸あれ！

おもと
荻下いつき個人サークルcheap+SHでは銀魂・ボーカロイドで活動中です。
ご興味を持たれましたらサイトを覗いてみて下さい。
<http://1107-cheap.com>



制服の袖間違えてるのは全部描き終えて気付きました…。ごめんなさい…。



字園樂園





なあに？

……っ

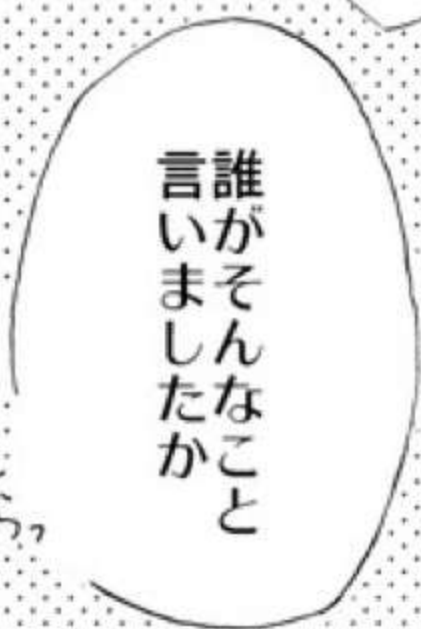


先生……っ



もうヤダ!!

普段プールに
入れない私の為
に夜泳がせてく
れたアルカ!?



誰がそんなこと
言いましたか

トキトキトキトキ

ていうか
普通おかしいと
思わねえ？

思わないヨ！

こんな話

私がどれだけ
喜んだと思ってるネ

最低アル！
せつかく先生の海パン姿
見れると思っただのに！！

ストーリー
フニヤキ
マツ

なんじゃ
そら…

まあ

俺も同じこと
考えてたけど



……っ

や…
神楽ちゃんの水着姿なんて
なかなか見れるもんじゃ
ねえよな

水着プレイも
いいかも……

あっ



やべ…失敗した…
もう全部脱がしまった
………

仕方ねえ
もう一回着…

くちゅ

ちゅ



ハズレハズレ
ハズレハズレ
ハズレハズレ

……

……ぞろぞろ



ちゅ

ちゅ

くちゅ

ん

あ…っ!

ちゅっ
ちゅ

ちゅ

いっ

ああっ

やああああ!

あっ



もっこそすんなっ...
でえ...っ

ちゅっ
ちゅ

や

あっ

やだっ
やああ!!

!!



ちゅ

ギッ

ギッ



ひゃう...っ

やっ

あ...!

あっ

あ

んっ

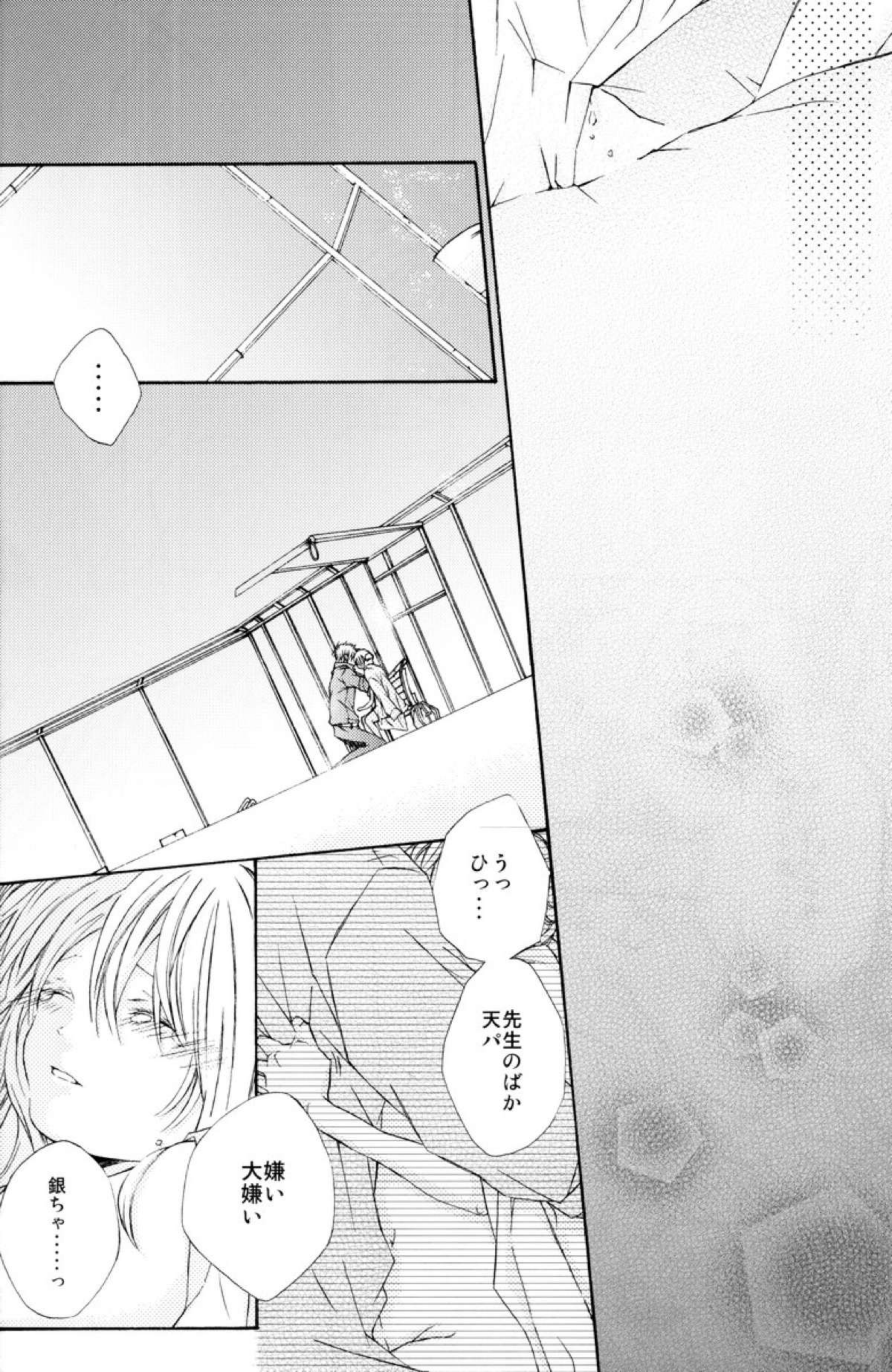
あんっ

や!

ふあ...っ
せ...
やっあっあ...!

銀ちやあ...っ!
あ...い...っ

やあああ!!



...

ひうっ
ひうっ
...

先生のばか
天パ

嫌
嫌
い
い

銀
ち
や
...
っ

……いや……

最初は入らせてやる
つもりだったんだけどな

悪い……

うそアル

あの時から

先生はいつも
こうネ

謝ってばかり

「神楽」

やっぱり……

今度の休みに
温水プールでも行くか

また
誘ったら

来てくれる
だろうか

今日も
わかってで来たな

「……」



::Thank you very much!!



アンソロ発行おめでとうございます！

こんにちは由宇と申します。
素敵な企画に参加させていただけてとても嬉しいです。
一応、銀→神・神→銀(?)にしたつもりなんですが…(アハハ)
それではお邪魔しました！銀神と3Z万歳！！

<http://aikou.pya.jp/> 逢幸



なんでヨ?
私も美味いだけ
飯食いたいアル!

合コンなんて、
お父さん認め
ません!



いけませ〜ん!



行かないでええっ!
500円あげるからあつ

嫌アル。
臭いアル。



あんなもん
合体コンパに
決まっただよ!

ヤイ
ヤイ

銀ちゃんいつもそんな
ところ行ってたネ!

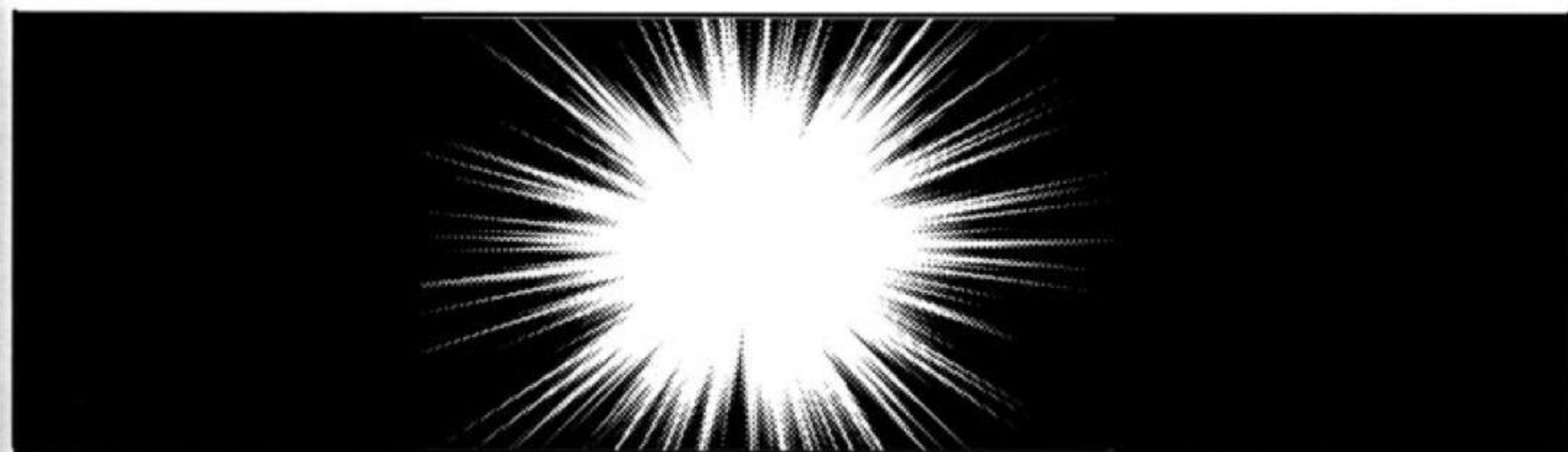
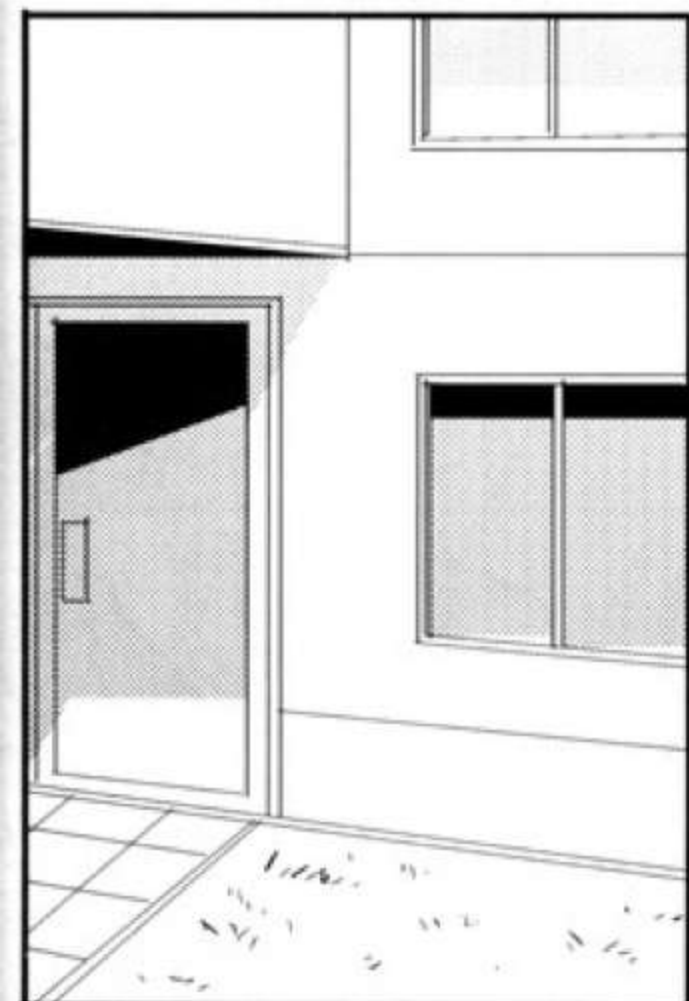
ち...ちがっ!
アレはっ...!!



邪魔してやる

邪魔して
やるう
うううう
っ!

お父さんだっ
昔は合コン行ってた
ぞしよ!!
旭ピオ。





男女合同
コンサート!?!?
しかも教室うっ!
心配して損し
たわあ!

な、なんの話い?
っーか、なんで俺だけえ!

パー子でえっすう。
ぜひ私も仲間に入れて
くださあ〜い☆
(裏声)



なんなんだよ、合同コンサート
つて、っーか、コンサートですら
ないよな。アレ。



なんでも男子
側にいるの?
効果音はちらっ
なのにすんげえ
こっち見てる!







なあにが、「合コン行くアル！」だよ、ま、勝手に怖くなってりや世話ねえや。汚れるから立てよ。



言わんこっちゃねえ……。



ホレ、



それとも



あんなことするはずないネ。

総悟は友達アル。



……男はみんなケモノだつて教えたたるーが。



違うネ！

そう思ったのは私だけだったアルか？



きゅん



16、
16、



こっち向け。

しょうがねえ子だなあ...
お前はあ。



ったくよお...

きゅん
きゅん



...くすぐったいヨ。

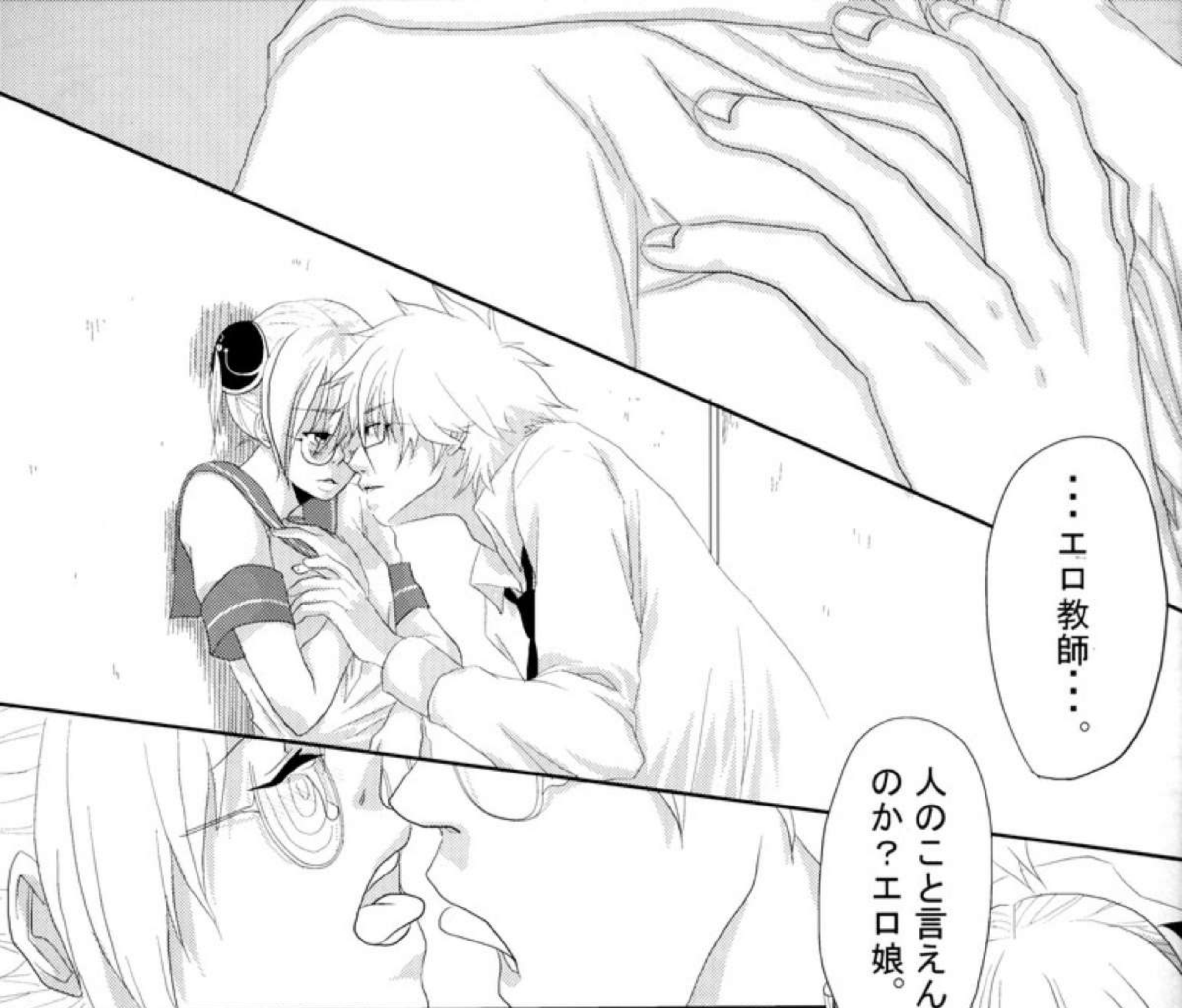


そういえば、神楽ちゃんと
パー子ちゃんどこに
行ったのかしら??
沖田さん。



お前がそうやって落ち込
む度にこんなことしてたら
俺いつか干からび
ちまうよお。

...ごめんネ、
銀ちゃん。



…エロ教師…。

人のこと言えんのか？エロ娘。



ね…ぎ、銀ちゃん…。
こ、個室う…。

バアカ、男子便所で
個室なんか使ってみろ、
ウンコだと思われるぞ！



はあ

はあ

噛んでもいい？

れろっ

……だ、だめっ……
干切れちゃうっっ、



あ、なんか
噛み付きたい……。



するっ



や……
ち、ちがっ……う

大発見……
女の子はココ
さすると泣き止む！

るるるる



アレっ？



あ……



あ、

あ、

クチュ

クチュ

クチュ

パンツが大変♪

ホタ

ホタッ



はっ…あ…
恥ずかしいアル。

もしかして、
期待してる？



…神楽あ

もういいから、
壁に手えついて後ろ向け。



...そつとヨ。
そつと入れてヨ、
銀ちゃん。

そつとって
言
ったのにい

あ...
気持ちイッ。

あああ、ダメヨ！銀ちゃん！
もう我慢できないいっ！
イッちやうヨオ...!!

あ、

ぎん
ちゃん

ずる、

は...



ぎ、銀ちやああんっつ！



このハカチン♡

キヤン



どこ行っちやっ たんだろっ？

ウワ

キョロ

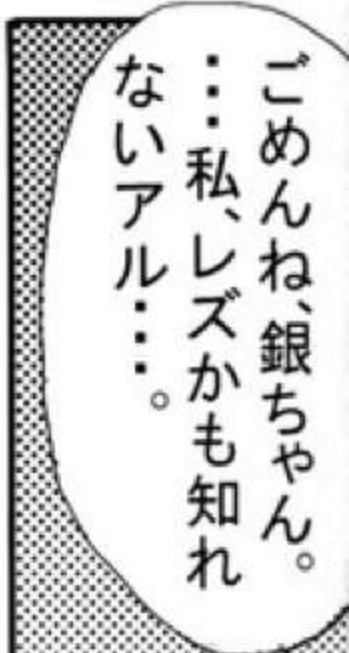
キョロ

＝おわり＝



なんか、パー子を見ると ドキドキしたアル。

!!
長付にて なかしたs...



ごめんね、銀ちゃん。私、レズかも知れないアル...



は？

お誘いいただき、本当にありがとうございました！！

銀魂暦どころか、同人暦もまだまだ浅い私を誘ってくださった、坂田あかり様は神です！

完成までに数々のご迷惑をたっぷりとおかけしたにも関わらず、根気強くお付き合いくださり、心の底より感謝しております！！
っていうか、コレちゃんと18禁になってるんでしょうか？とっても自信がないです。エロ漫画どころか、こうして紙に漫画を描くことすら滅多にないもので、読んでくださる方々にご満足いただけるか心配でなりません…。

ぜひ、素人が描いたものだから…と、広い心で読んでいただければ幸いです。

普段は自サイト内で原作ベースを中心にほのぼのの万事屋や、甘々銀神の漫画を描いております。お暇な方はぜひ、サイトの方もチラッと覗いてやってください。こんなところまでお目通しいいただき、ありがとうございました！

旭ピオ



MEMEME...<http://me3.gooside.com/>

国語準備室

補習の理由

ケ一

おいおい

付き合ってる奴の
担当教科くらい
いい点取れよ

ひらっ

・・・あ

現国

30

はー

おめーよー
この点数はねーんじゃね？





赤点じゃ
ないアルカ

補習とか
しないアルカ

赤点じゃねーけどよ、
他の教科はまあまあ
まともな
点取りやがって



補習しねえから
実家で夏休み
ロングバケーション
過ごし・・・おい？



あ？
しねーよ。
赤点ぎりぎり
違うし



・・・んだよ
なんでそんなに
落ち込んでんだ

いーじゃねえか
補習なしですぐ
夏休みなんだからよ

とーちゃんに
早く会ってやれや
あいつ意外に
寂しがり屋っぽいもんな

・・・アルカ

？



先生は
私の実家に帰っても
寂しくないアルカアア!

先生は…

…は?

帰りたくないアル

私は寂しいアル!

先生とずっと一緒に
居たいネ…

だから補習受けたかったアル



ええええええ

っ!!



はっ

銀ちゃん先生!
浮気する気アルヨ
絶対!

はあ?



きっと私がいない間
女連れ込んで
マニアックなプレイ
するアルヨ!

ちよ...
お前俺のこと
そんな目で見てたの...

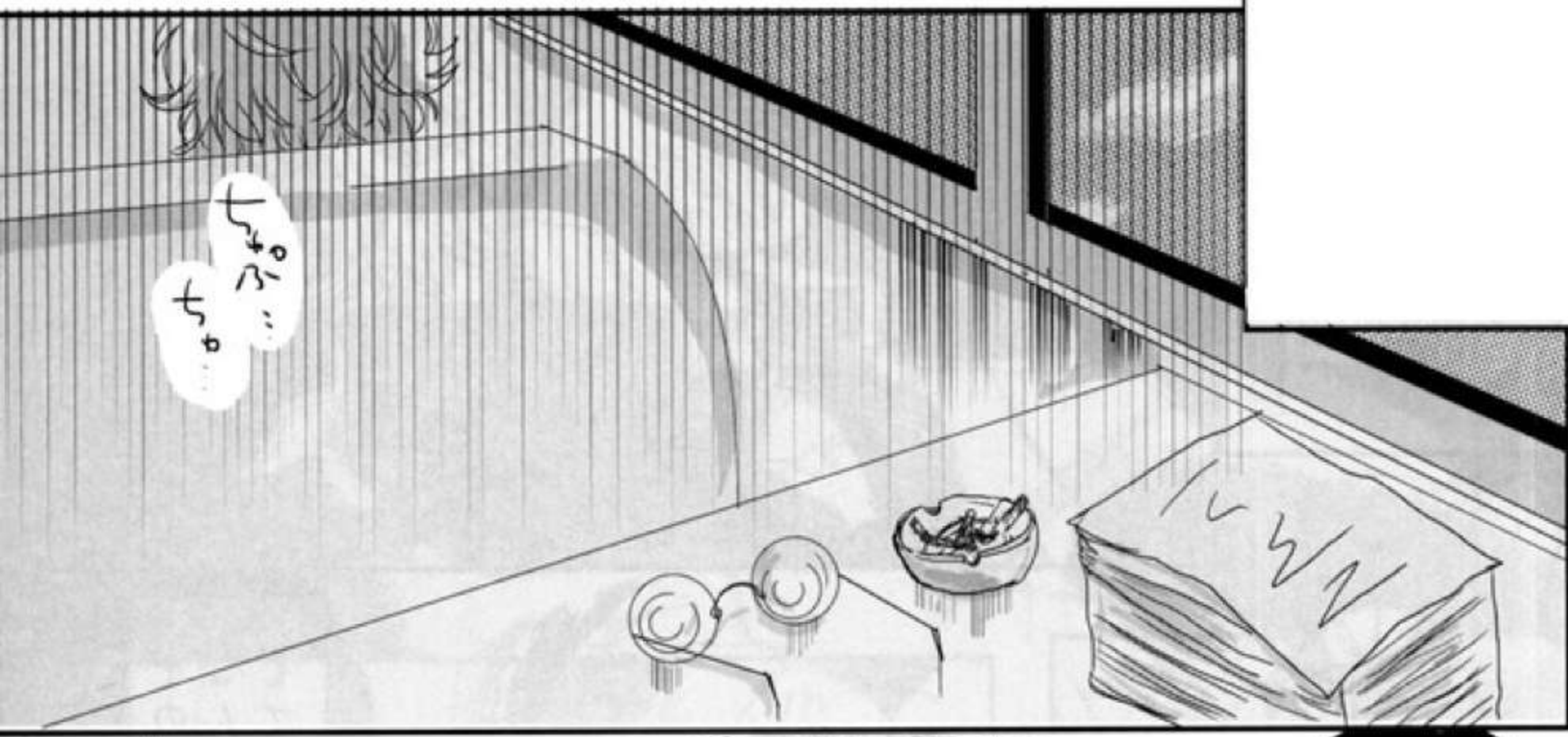


銀ちゃん先生が
浮気できないように
してやるネ!

えっ?

ちよっ!
神楽?

カキヤ
カキヤ



…何言ってるかわかんねーから

ひえんひえい
ひもひーあふあ？



…だーからわかんねーって…

ほへんふあふ

…っつか…
入れたまんま
しゃべんないで
くれる？



外では爽やかな青春
ワイわーっ!!
ワッ

キーン



それにしても

はーっ



その一方では
こんな不埒なことを
している

なんつー背徳感

じゅぶい

じゅぶい

んっ

はっ

んっ

はっ



言わなくて
いいのよ

あ。
先生大きくなったアル

よし
次はお前の番だ

ほえ？



ごろん

あっ

なんだ
色気のねーパンツ
はいてんな

いちごアール!
お気に入りネ!



垂れてんぞ

じゅっ



うわっ
トロトロじゃねーか



ひゃっ...

ああっ

ビュッ



あっ
せんせ…

ほら、
手がおルスだぞ

わーすっげー
ぐしょぐしょ

アキヨ



あっ…

もっ…いっっちゃ…

んっ

はっ

んう…



せんせえっ…



だーめ
まだイカせねえ

せんせっ…

あああっ

吸っちゃ
いやあっ…

びんびん



ほら
足上げろ

ぎ、銀ちゃ...

はっ
はっ
はっ

ぐいっ



誰か来るアルヨ...



こっちでイケや

あっ

どっ



あっ...

やっ...

スッ
ぶっぶっ...



知るか

ん?



こんなにして淫乱だな神楽は

あう

やっ...

恥ずかしっ...ヨッ

あんっ

やあ

すっげー
ぬるぬる

すっげーきもちーわ
お前ん中

ひやあつ

ああっ...
せんせっ...

ビンビンッ

あっ...

せんせっ...

も...
イっっちゃう...

イっっちゃうヨッ





うあっ

あっ

あんっ

ひやっ

じゅ
じゅ
じゅ

じゅ
じゅ
じゅ



すっ

銀ちゃん先生っ

好きっ



やっ

あ

せんせいっ...

銀ちゃ...

ズンズン



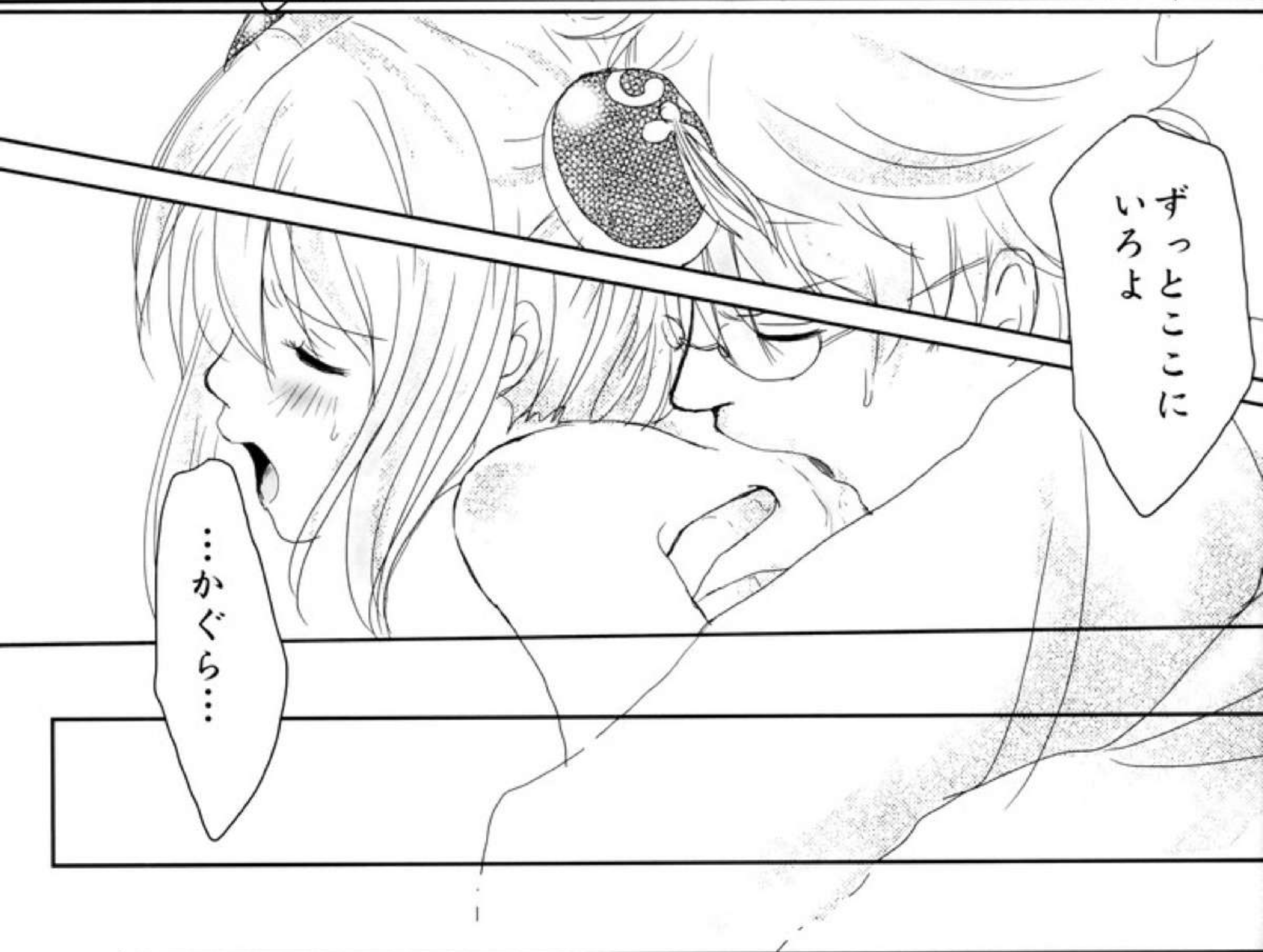
好きヨっ...

せんせ...



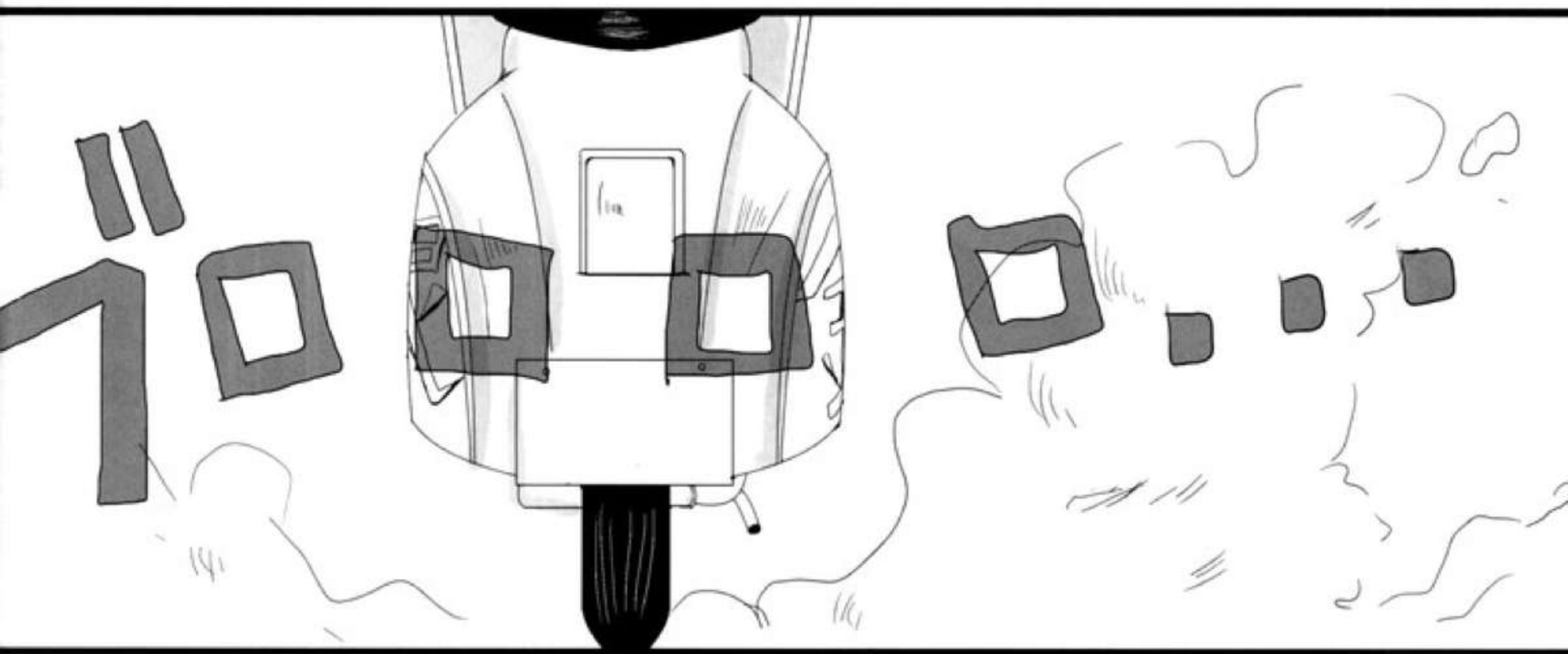
畜生…

夏休みなんて
クソくらえだ



ずっとここに
いろよ

…かぐら…





バイクに跨るなっつの
パンツ丸見えだろーが

カバンに隠れてるから
大丈夫アル

ジャージ穿け
ジャージを

イヤアル
暑いもん



ったく…
おめーは言うこと
聞かぬーから

2週間後
補習な

それまでに
帰って来いや

…うん!



帰って
来なかったら
女連れ込んで

マニアックな
プレイすっから



冗談!
冗談だつて!!

つか足
前に持つてくんなアアア!!



ダメアルヨ!!



おしまい

ありがとうございました！



銀八×神楽アンソロジー発行おめでとうございますv

素敵な企画に参加できて幸せです！！
楽しく描かせていただきましたv
銀八がどうしてもドSになってしまうことを
お許しくださいますせ…
そして主催の坂田あかりさんん！
本当にありがとうございましたvv

銀神に幸あれーvv大好き！！！！

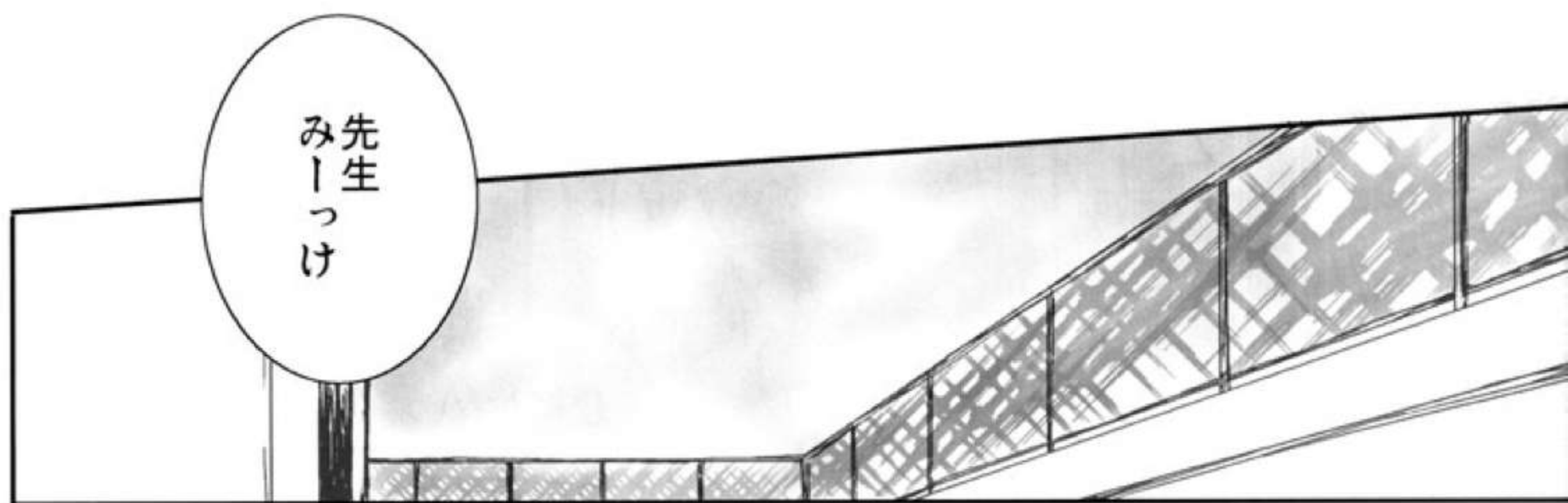
ケー挿

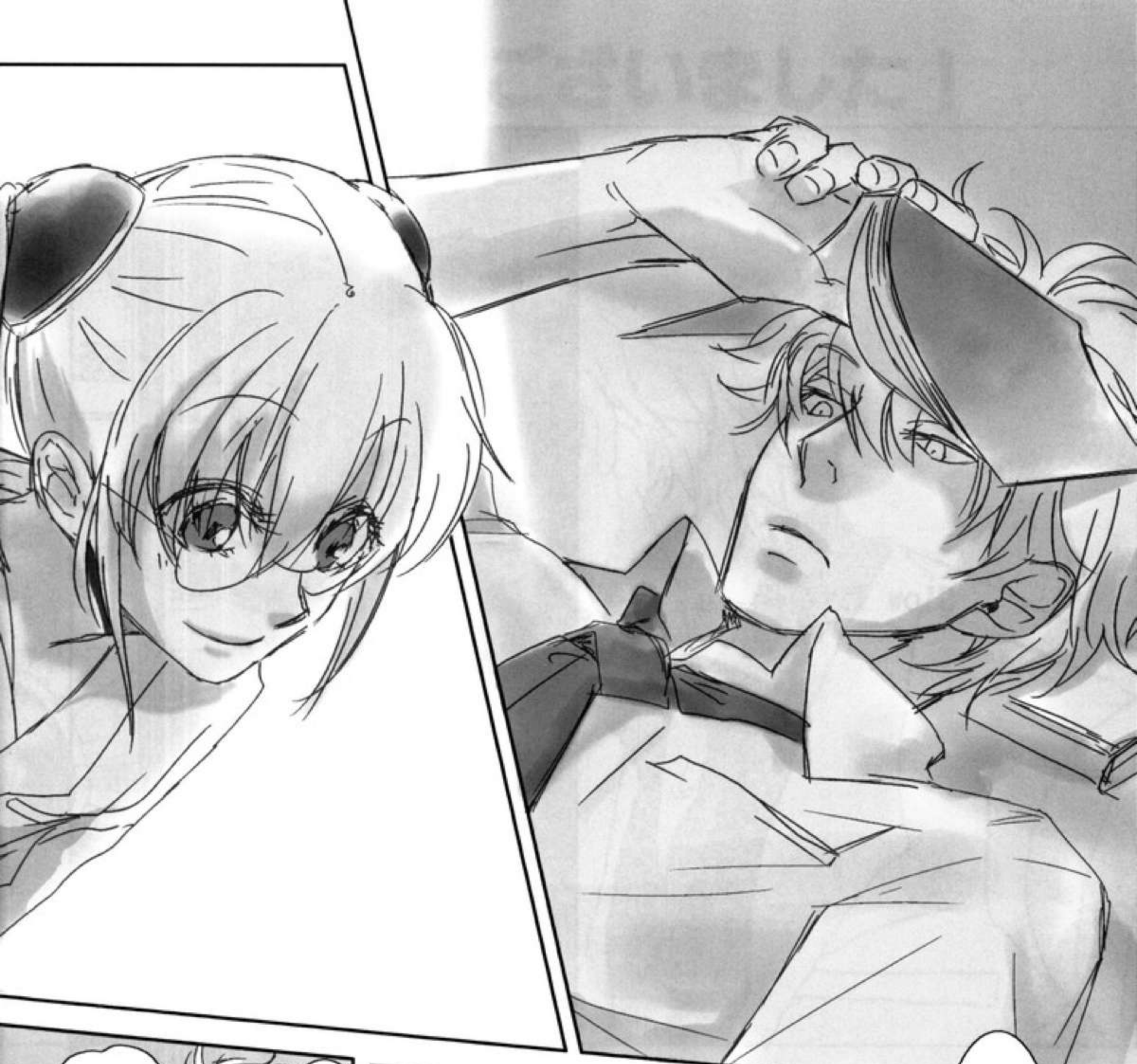
人間は不健全ですが健全サイトです
<http://hebimani.moo.jp/>

Slow life/サイトーマミム



先生
みっけ





え？なんで？

え？なんで？

その格好で
俺搜して
学校中走り
まわってたの？

うん
風通しよくて
涼しいヨ

…そろ涼しい
だろうよ…

わ
わ
わ
わ
わ

わ
わ
わ
わ
わ



せんせい？
目がエロいよ？

しょうがねえよ
おまえ……

明らかに据え膳
じゃねーか……

しちや





せんせつ...
せんせえ...

ん?

もういっぱい
濡れてるヨ

はやく...

ん
大事なもの

ちん...
ちよ...
ちよ...

なに?
なに?



生がキモチイイよ



!!



ぽん

え

いらないヨ



いやお前な...



あまじぶ?

中を出してもへーき

じだよーぶ



わたしのエンジンだから





女神金神のマンション

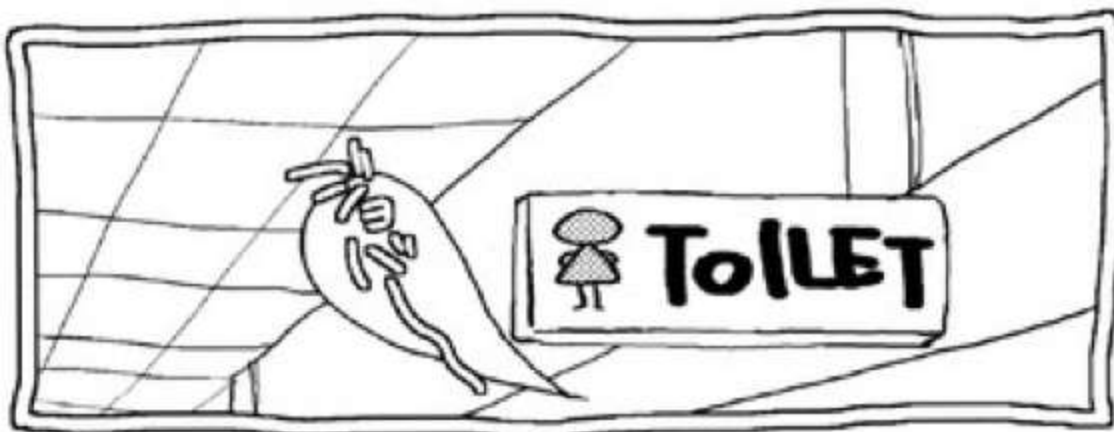
Slow life / サイト-マミ

下座

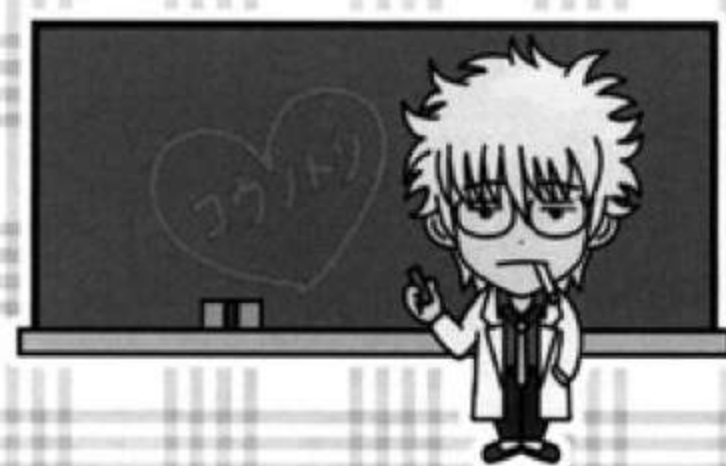
マニロ発行おめでとう!!!
 このおてき本に目の黒ぢが100
 モが敷ると思ふ戦慄が走ります。
 本当ご迷惑おかけします...
 いかし金神の隅で愛をちか声で
 叫んだん板取をお誘いくださいんて
 ありがとうございます! えい女神! (お礼)
 とおはあ目活した変失れしました。
 他のお板社の先生や神様を糧に
 生きて行きます。ます...!

マミ

後日談。



ありがとうございます



字園天園

お遊戯の時間です。
橘ロツテ

資料室

よしよし
よく我慢
できたなあ

ぐう…
ねえ先生
もう早く
コレ取ってよお

んじや
早くこつちに
ケツ向けるよ

ほろろ
こりやまた
すつげえ眺め
だな

ヒキキ

ハクハク



ブルマまで
びしょびしょ

もらった
みてえに
なってるぞ

おあ

グググ

そんなに
よかつたかあ？
コレ...



最低
アル

変態教師
なんで



授業中も
我慢していたんだ
もんなあ

ビクビク
しちやつて
可愛かった
な！





悪いな
先生我慢
きかねえのよ



カッ

カッ

あつあつ
はっ

カッ

あつあつ



あつあつ

あつあつ
せんせえ...



ザッ

ザッ

はアッ
はヒッ

ザッ
ザッ

ザッ
ザッ

はアッ

ザッ





私だけ
こんなめに
あつて不公平ネ

アノ人聴た
アノ人かな

へ？



先生も
同じように
オモチヤ
突っ込んで

あ

授業に出て
みるアルよ



完



黒と白の
コントラストが
たまんねえなあ

アノ人聴たな。

あ

あ

銀神3Zアンソロ発行 おめでとうございます!

ブルマとか玩具とかすみませんでした(爆)
こんな素敵企画に参加させて
頂き本当に嬉しいです!
力の限り頑張りましたっ!

皆様の銀神を見るのが楽しみで
しょうがないです(´`v)

橘ロツテ。





オメーちゃんとか
考えてるか?
オメーちゃんとか
考えてるか?
オメーちゃんとか
考えてるか?

わ...かりませ...ん

問11
漢字の読み
ホレ

内橋薫



センセ...の
指が...っ
はあ...

あ...
ヤンツ
だ...って
はあ...



そんなに
分かんねえなら
書いてやろっか?
...指で

ナカでずっと
動いて...っ
ああッ
ちゅっ
ちゅっ
ちゅっ



え...っ
やッ...!?



いつも
俺の授業
まじめに聞いて
ねえだろ
あ...あ...
ちゃんとか集中
できるようにして
やってんだよ

はあ...
ん...
あ...あ...
あ...あ...
あ...あ...





イタズラしちゃダメヨ...

勉強するんじや...

はま...
もにゃ

もにゃっ

ちよっ
銀ちや...



あ...
だから

ナニが当たって
るってえ?

その...



きや...
あんっ



ひっ
やあん

おちや...

おちや...

んああッ!

ん...

あし、

すり

もめ
もめ

楽しくお勉強
しようぜ



いいじやねえの

はま...







…！！！！！！

あー！！！！

！！！！！！

じゃあこの問題が
解けたらな

あー！！！！

ぬる
ぬる

んっ
もあ…

はあ…
ギン

やだ…あ
先…せ…っ
ぬる
ぬる

ぬる
ぬる

ぬる
ぬる

ギン

分かんないって
ばア…っ
はア…

お前は元々
変だろし

頭…
変になっちゃう
ヨオ…っ
ひん

嫌なこも、
お願…い、
ギン

ぐんぐん、
広げちゃ
ちあ…っ

ぬる
ぬる

みち
みち

は…っ
入…っ…っ
ぬる
ぬる
あ
ぬる
ぬる

え？
あっ？
ぬる
ぬる
やあんツ
ちゅぽ

ぬる
ぬる
あ…っあ…っ
ぬる
ぬる



学科は

さっぱりのクセに

おすい

おすい



あ...つく...うつ

おすい

体の方は

覚え早いもんな

あや...



ガタタッ

んっ

...お前ってさ

あう...!

はあ...あッ

おすい



ほら...な

はあ、女... はひい...

腰の使い方なんか

上手くなつたもんだなア



女...

おすい

あ... イイっ...

おすい



おすい

ああんッ

ひあああッ!!

あッ
うう...

おすい

おすい

おすい

おすい







神楽ちやあーん？

たっ

はあ...

イクの早くね？
そんなに興奮した？

あ...



はあ... はあ...

はああ...

キュウ

ハッハッ



こっちも

イかせて

もうわねえや

はあ...

ビクッ

ビクッ



もうちっと

はあ...

教育が必要
みてえだな



はあ...

ハッハッ



あひいっ！

ま... また
後からっ！

はあ...

ハッハッ

はあ...



あ...うくっ

う...ああッ

は...

は...ああ!!

は...

お...

お...



コラ

校内では先生って
呼べっつったろ

ふがっ!?

ふ...っ
ふえんふえ...っ

んん...っ



ふああっ
銀ちゃんっ!



銀ちゃ...

ひうっ

銀ちゃんッ

は...ぎんちゃ...
あ...!!



シラビ...

シラビ...

ズ

変なユリッ...

ユリッ...

シラビ...

イイッ...
ん...あ...
激し...

ズ

ふああんっ

イイユリッの

間違いじゃねえの?

ズ



ん...あ...!

銀...ち...

先せ...えっ

また...

ず

シラビ...

ズ

ズ

おか...
ん...あ...
ん...あ...

また来...

来ちやう...

おほ



もっ...

ナカ締め

先生もイクから

おほ

おほ

おほ

おほ

おほ

おほ

おほ

あ...!!



あ...あ...あ...!!

ん... あッ!!

ひゃああああんッ!!

キョウ

キョウ

ボク

キョウ

赤点

数日後

...うう

頭ぶとんで
賞えたの全部

七ひゃん...
た...

銀ちゃん先生の
せいアル...



ほとんどいつとも
変わんねえじゃ
ねえか

俺はカニ
マシヤカニ

追試決まらねえ

無責任な
ニメエロ
教師が

よっぽど勉強
好きみたいだな

追試はカ
マシヤカニ

好きなんだろう？

ちがー

あっちの方の
おブンキョー

放課後

追試はカ
マシヤカニ

みっちり教えて
やるからな☆



「お願いしまス」
「カニマシヤカニ」



End

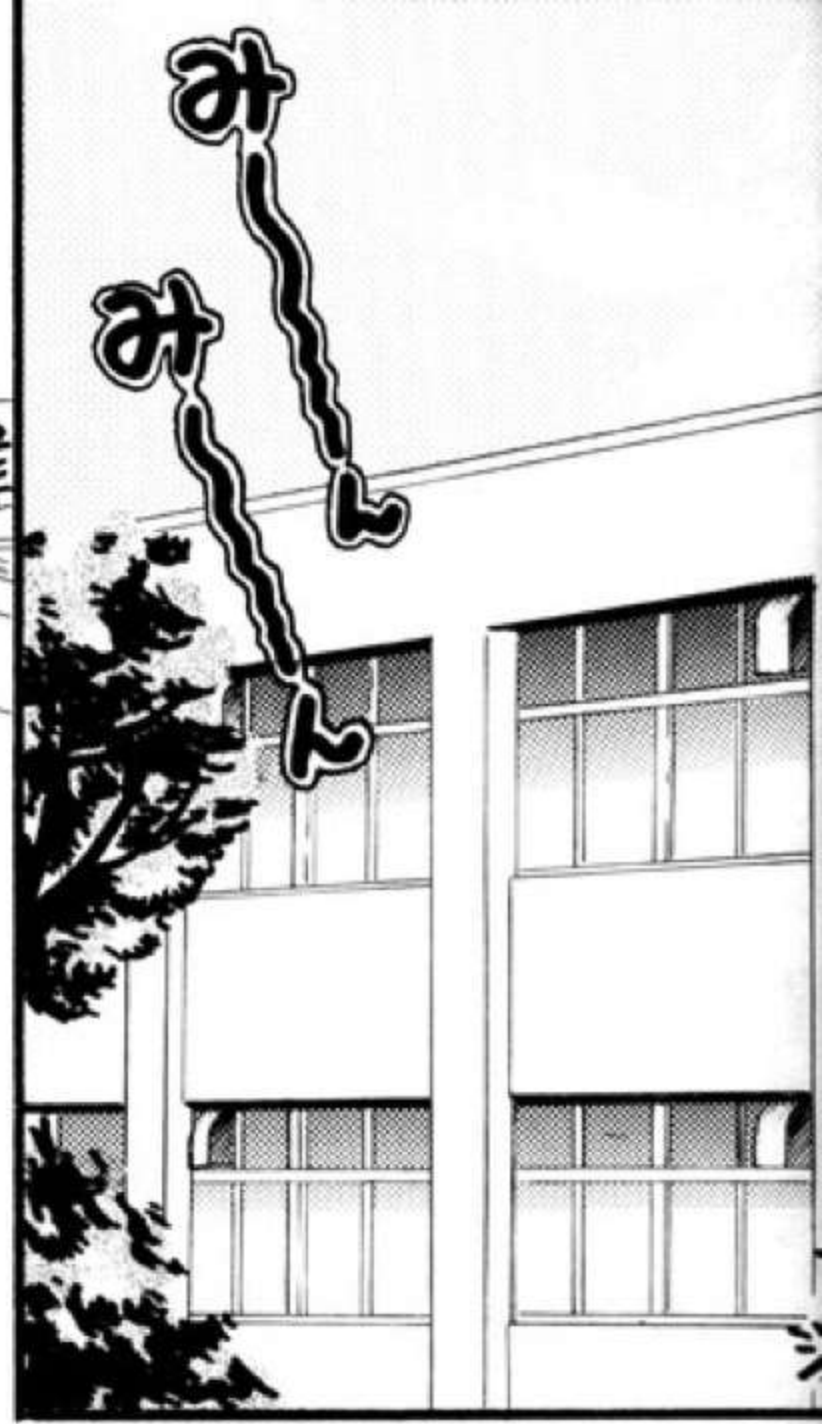
ZZだぜ!! ひゃっほーい!

銀先生のジューズとか、
服とか、(本態すぎすいほっせーん)

お疲れさまですの内橋薫です。
ずとろエロ描きた!!と思、たのぞ
楽しく描きました。こんな機会を
頂けてありがた!!です。とし
色々と迷惑をみかけしてしま
いました。おかしには頭が上が
りません。感謝にもしま
せん。本当にどうも
ありがとうございました!!

内橋薫 拜
の





さすがに
メシ食う気も
失せるな、マジ

I'm glad to help you



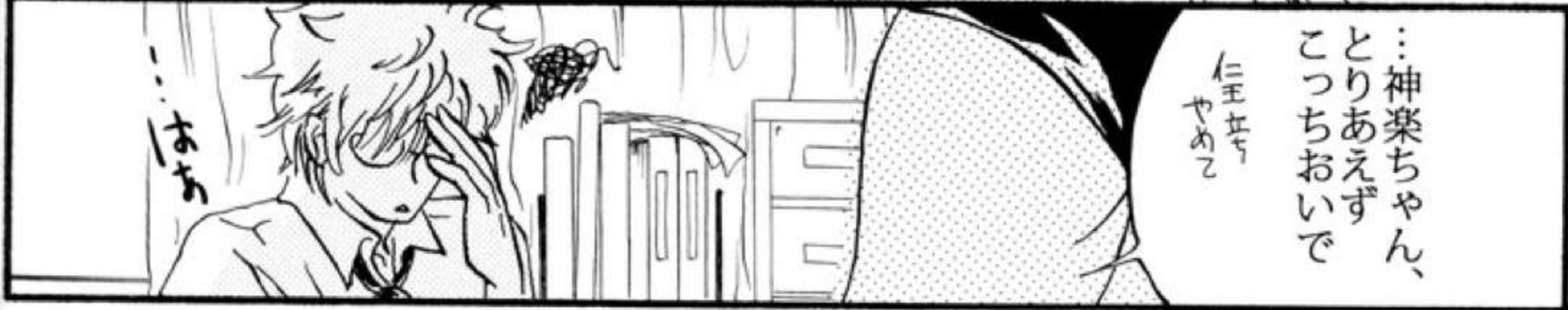
せんせええ!
でいーぶきすつて
なにアルかああ!



だから！
でいーぷぎす、アル！

…はい？

早く教えるヨロシ！
いつも先生と
してるのと
ちがうアルか！？



…神楽ちゃん、
とりあえず
こっちおいで
仁王様
やめて



でいーぷぎすが
どーとか
言ってたから
「何アルから？」
って聞いたたら

お子様チックな
アンタには、まだ
早いわよ、つて！



体育だったんだろ？
着替えもしねーで
なに？ 急に

かあ
い…

だつて
アバズレ巫女に
バカにされたネ！



ぞんざん

それで
体操服のままま
すつとんで
きたのか

うん！
先生早く
教えてヨ！

わかつた
わかつた

はい、じゃあ
メガネ取って

先生も
とるから

て〜ね〜に
教えてやるからな

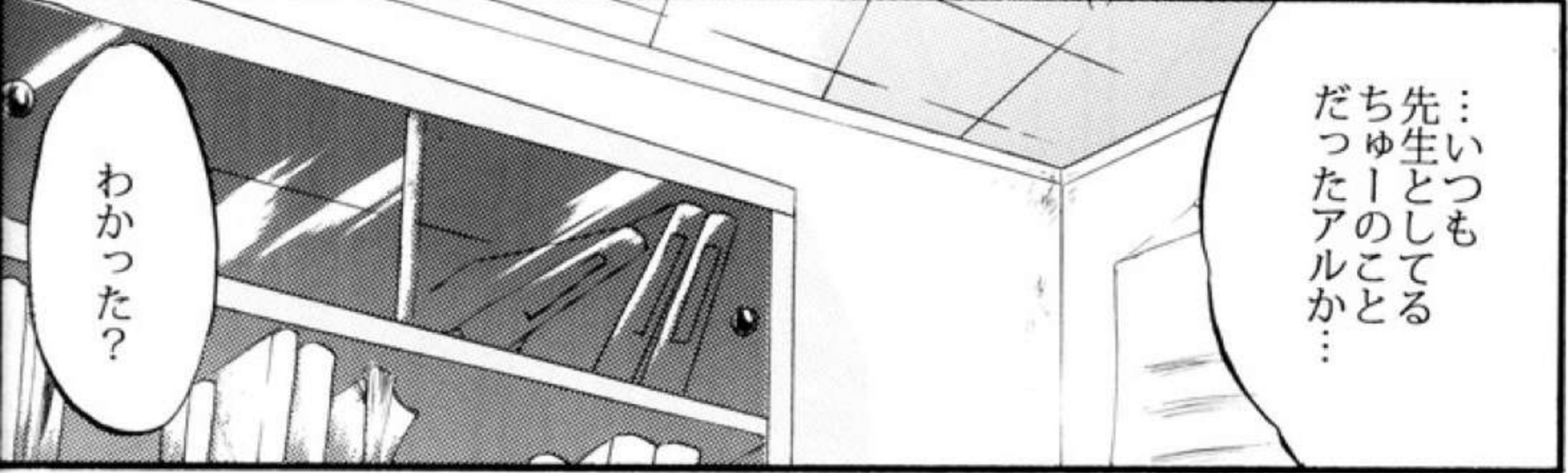
……

ん、ふ……

先生もメガネを取って



これが
デイープキス
ってヤツです



…いつも
先生としてる
ちゅーのこと
だったアルか…

わかった？



モッ！

アバズレ巫女にも
そんなのいつつも
してるネ！って
言ってくるアル！

待て待て待て

何で止めるネ！

いいーか神楽
そい女はあんまし
話さないもんなの



…私
いい女アルか？

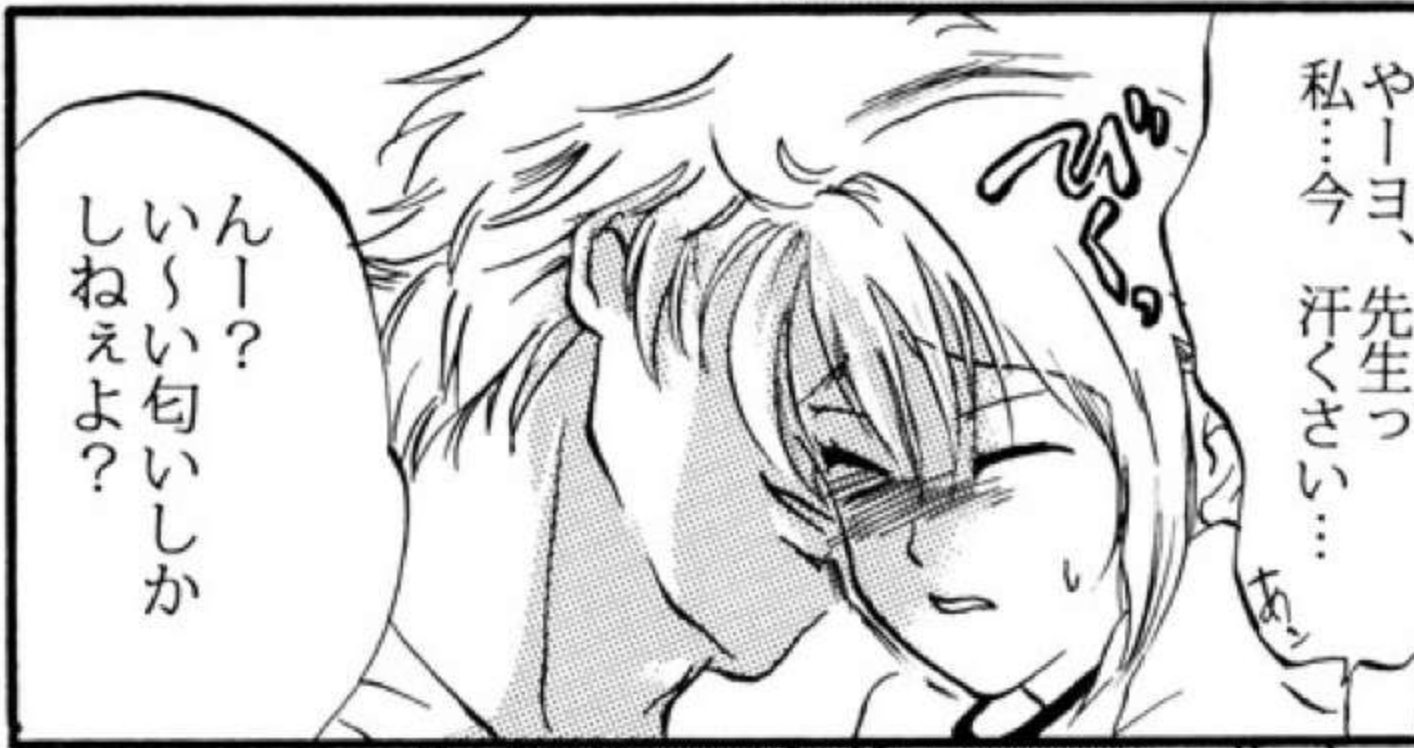
んー？



…
そーアルか？

そーなの

ハム
オオオ



やーヨ、先生つ
私…今 汗くさい…

んー？
いーい匂いしか
しねえよ？



…ノーコメント

なんでヨ
ちやんと答え…つ



ん

あつ…センセ
何勝手に
さわつてるネ！



制服もいーいけど
ブルマつてのも
なかなかクルよな

ヘンタイ…

ヘンタイ上等
今日の先生の昼メシは
神楽ちゃんに決定

……まじまじ

わっ、私ご飯じゃ
ないアルー！

そーんなコト
言っちゃって
神楽、お前

もう、濡れちゃってる
じゃねーかよ

あつ ダメエ……ッ

神楽のココは
感じやすく
カワイイな



ん……ん……ん……

先生……っ
汚れちゃうアル……
ちやんと、脱が……
してヨ……

あとでな



あ

あ

ん？ 学校で
こんなコトされて
興奮してんの？

センセ……
イジワル……



イジワル…ねえ

ひゃあっ

あっ

うあ



やああ…っ

こんなに
グチヨグチヨに
してる癖に
よく言うぜ

はあ…ん、

あ、ああ…っ

いあ、

インラんだなあ
神楽ちゃんは



あ、

あつ先生……っ

そんな……っ
深くしちゃ……あん
ダメヨオ……!

ああ……っ

さっきのキスの
復習もしねえとな

えっ

あ

ん、むっ



やらしいなあ
神楽あ

あ

こんな熱くして
ヒクヒクさせてよお


ああ

あん…っああっ
先生…先生…っ

きちやう…っ
きちやう、ヨオ!


イ…ツ、ん

…はあ…っ



くたつてんじや
ねーよ、神楽

ああ、あ…っ



うん…っあ、
はああ…っん

…は…っ

あ…っついヨオ…
センセ…っ

きっっ…

せんっ…せ
後で脱がして
くれるっ…て
…うそつきイ…

…うるせーな
いいだろ、もう
挿れちまったしよ

動くぞ

あっあっあ

やつ…いや…っ
そんなに、しちや…っ

何が「いや」だよ
こんなよがって
締め付けてるくせによ

先生が…っ
好きだからヨ
バカア…!!

…もう一回言って
神楽

すき…
先生、大好き…!

…神楽
もっかい

あ…っはあん
…すき、すきヨ
先生だけが…すき…っ

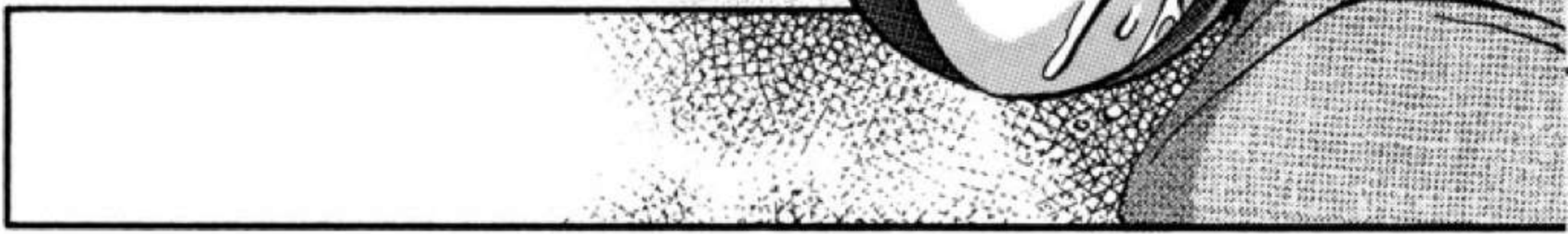
もっかい…

す…き…っ
あ、あああん!



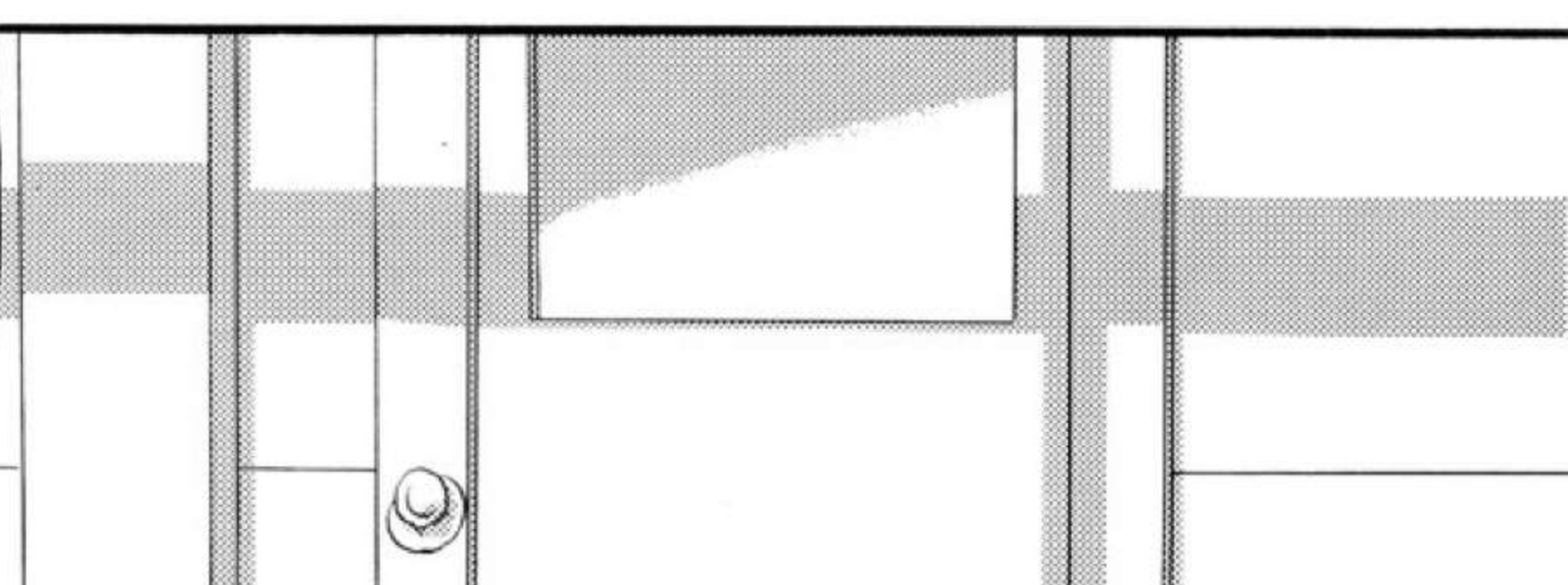
ああー…っ

…せ…っん、せえ…!!



…もおおゝ

どーしてくれるネ
ブルマとパンツゝ



先生のせいで
びろんびろんの
ドロツドロアル！
もうはけないヨ！

お昼も
食べなさいな！

びろん

あー、大丈夫
替えあるから

なんでそんなの
あるアルか！

制服の替えも
ちゃんとして
あるから

また質問あったら
いつでも
キナサイね



…このド変態教師っ！

ボカッ

END

3Zアンソロ発行おめでとう！！

参加させて頂き、ありがとうございます！

私なりにがんばってみましたか、どうでしょうか…。

少しでも楽しんで頂ければうれしいです！

▶<http://homepage.mac.com/digigun/hiwa>

「透明の心」銀エムと神撃だらけ

わもこっりやっま、見かけたら

どうぞよろしくお願ひします♡

・ヒワ・



今日も明日も
愛してちょうだいませませ



マヨ

うー







!?

ちよっ
何すんだ!

先生視力
何度アル?

ムムム

それがないと
字読めないん
ですけど!



そんなに
悪い力?私と
一緒ぐらい
ネ?

おっ

おいしい

ちよっ

ちよつと
取り替えてみる
ヨロシ!



お前ねえ...



はい

似合うアルカ？



ん？先生
どうしたネ？

なんかその
メガネ博士
みたいネ

はっ！てことは
私もしかして
いつもこんな顔
してるってこと……？

ハ
ニ
ツ！





あ

人が来るネ

あ



「」でするアルカ?

うん

何?



わっ

センセツ

あ、あ、あ



ほしそうな顔してる

は



こんな時間で誰も来ねーよ

ううう



あん

やあ

それに今さら止めてほしくねえだろ?



センセ
この体勢
きついネ
...

がんばれ
れ

手伝って
ほしいアル
う

ヤダ
自分でして

いぢわる
ネツ!

大丈夫
神楽はできる
子だ

あつ
うう

うう



よっし
それじゃ
こっち

あと
先生に
まかせろ

あ
ちあ



はあ

ああ
あ...ああ

ほら
入った

うく



キョホ

あっ
はっ
あ



銀ちゃん
手ー

暗いから
平気ネ

仕方ねーなあ



だーめ

誰が見てるから
わかんねーだろ

うーん



^^
^^
—
^^



ねえ銀ちゃん





だって私今まで
博士みたいたいなんて
顔してたなんて

シヨツクヨ...



私メガネ
変えよーかな

あ？
何で？



もつとせめて
顔がはつきり
見えるように
しよーと思うネ



あーうん

うん



いや

そのまんな
いそんじゃね？

そのまんな
がよいまんな



うん



顔わかんねー方が先生安心です

こっちの身がもたねーし

ん ん

おしまい



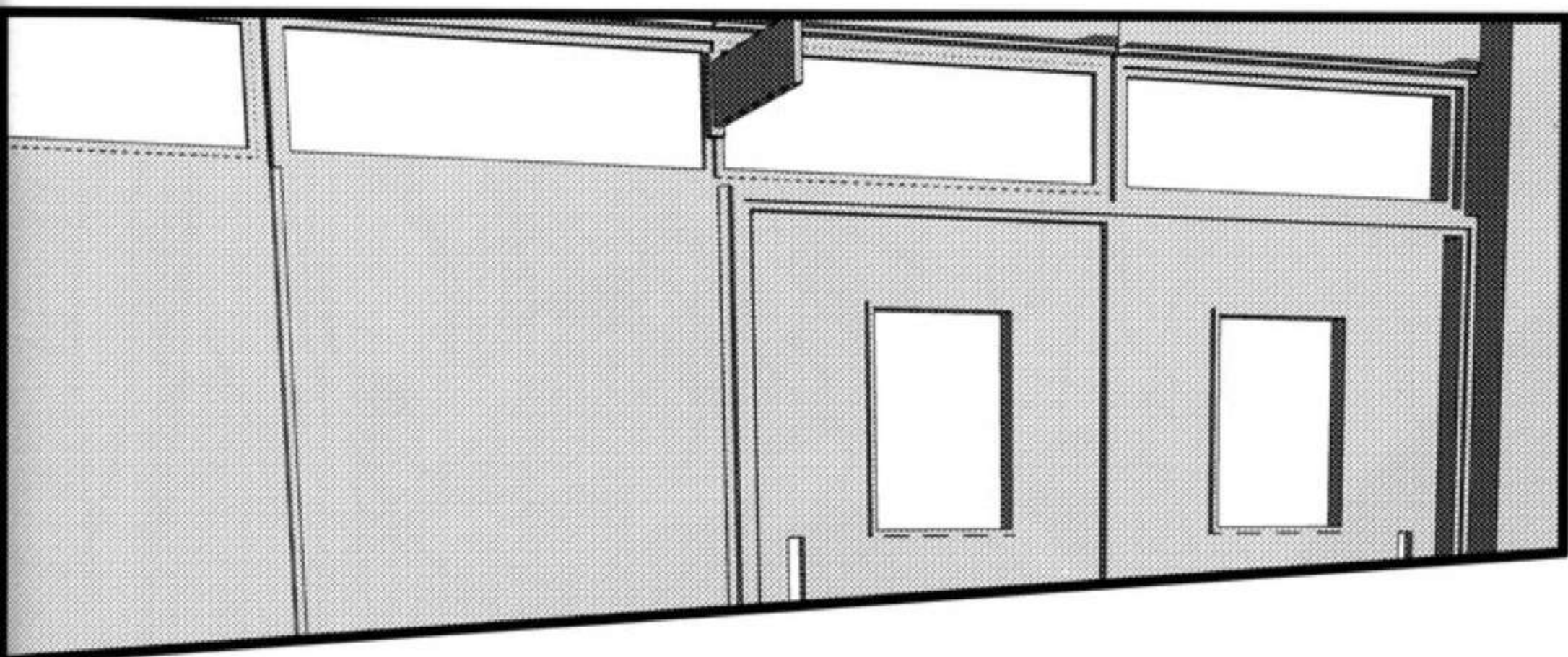
ありがとうございます
ご来店!!

32銀神アンソロ発行おめでと〜ございますー！
お誘いくださいませまして本当に
ありがとうございますました！
楽しく描かせていただきました！
学園！エロス！銀神！まさに
パラダア〜イス！

<http://cupieharf.gejigeji.jp/>

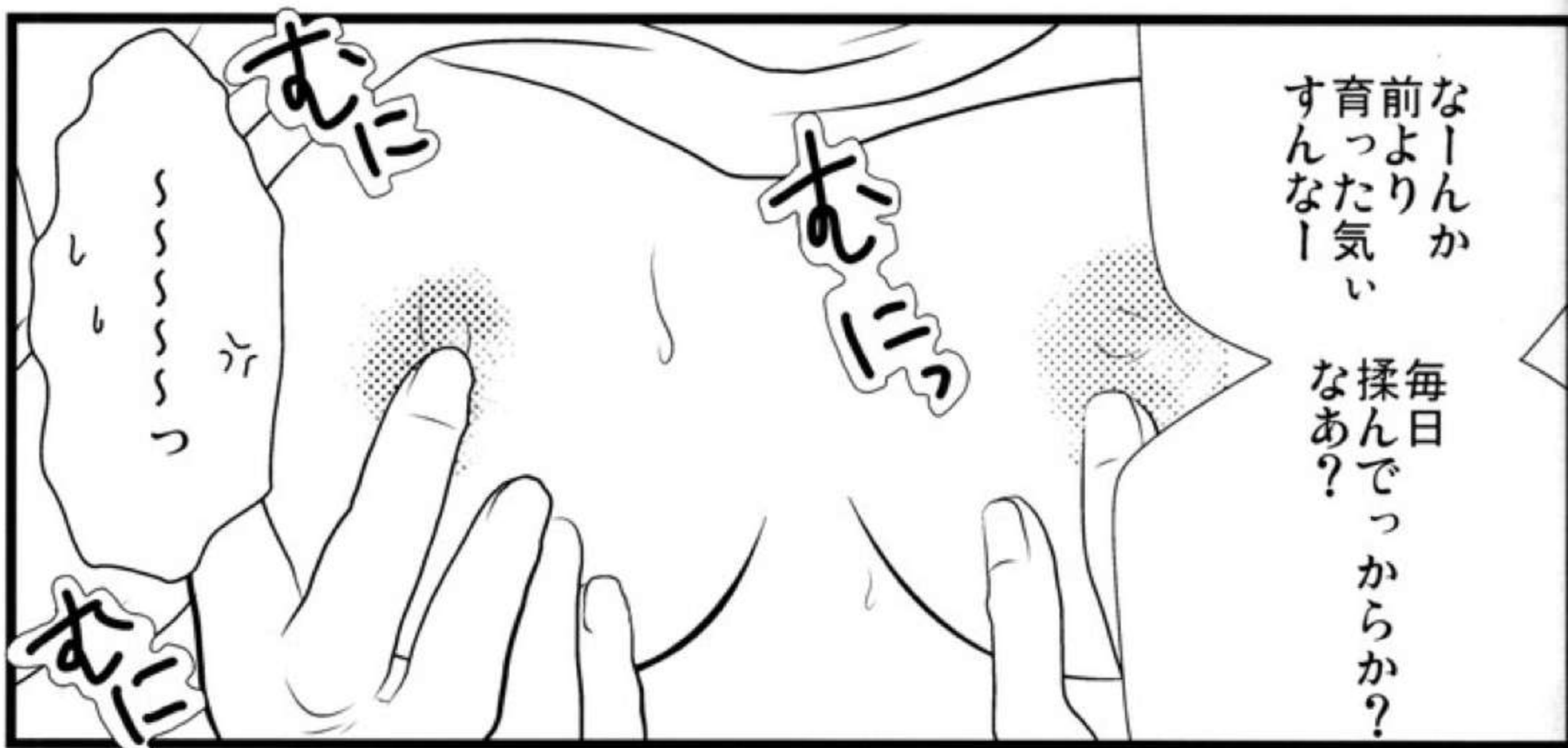
銀神・土神・神威

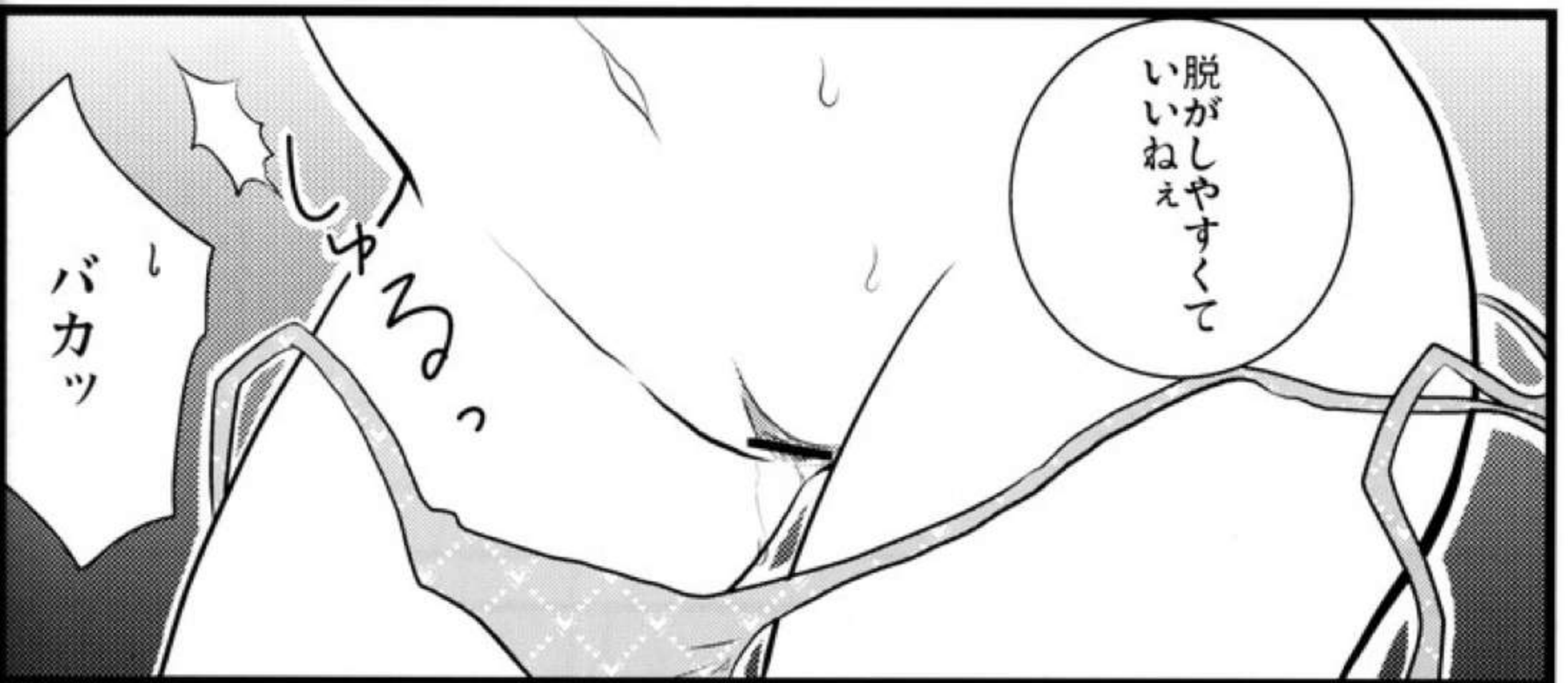
ママ



資料室の恋







おん







お誘いありがとうございます
ございました！

ここに自分がいていいのか！と
びくびくしております…が、
すごく楽しかったです！
まんがで銀神を描くのは初めてだったり…
普段は読む側です。

なんだか自分の漫画の坂田先生がすごく
最低なかんじになってしまったんですが
ふたりに 愛は あるんですよ…！
もりもりあります
とにかくえろくするぜ、と思いつつ
かいたら
こうなりました

とにかく本当に楽しかったです！
ありがとうございましたー！

ヒガシエリコ

よろずサイト
<http://tender.her.jp/>



数学自習!

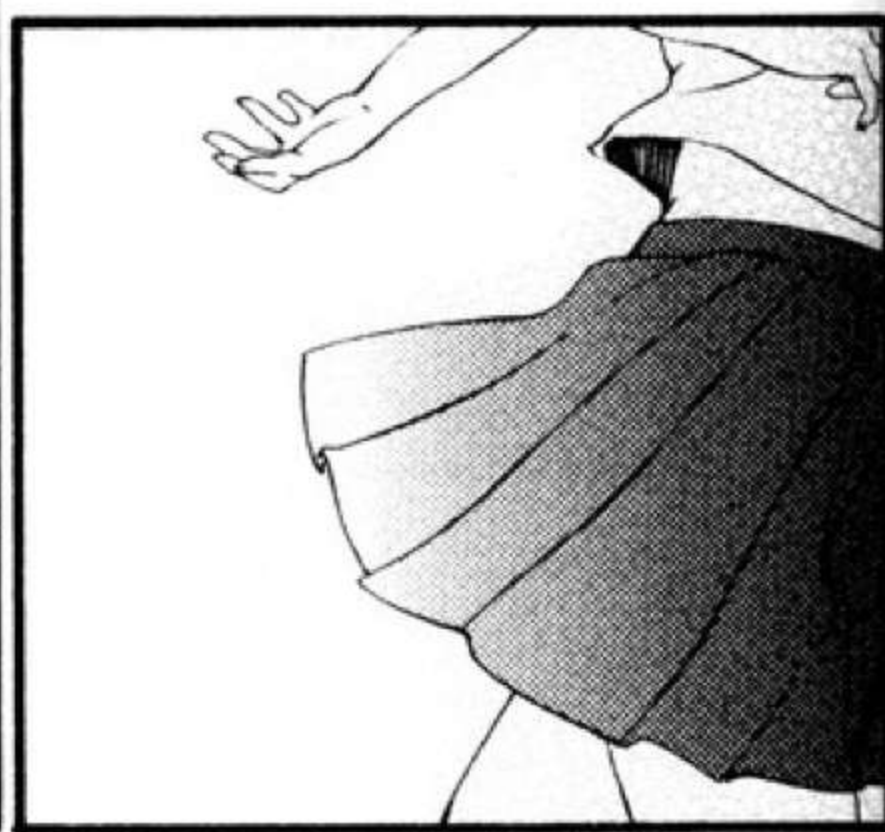


キラ

3



イタッ



カ
カ
カ

カ
カ

先生の寝顔
ゲ！ツト

よだれ

…お前今
授業中たる
何してんの

自習だから
抜け出して
きちやっただネ



ったく…



どしたの先生

具合悪いの？



…今
雨降ってる
だる…



降ってるヨ




雨が降ると
体だるくなったり
眠くなったりすんだよ
…天バもはねるし




大丈夫？

！




大丈夫だよ
本屋に入ると
小使いきたくなるのと
同じだから


? よくわかんないけど
私もあの日になると
すごく眠くなるヨ
同じ感じかな?




...



誰もいない教室で
2人きりになると
エッチしたくなる?



うん...









神楽
腰上げる



ん…



あッ…

あッあッあッ



んッんッ

は…あッ

はッ



んッ

ゆッ

あッ



あッああッ

んあッ

ツツツ

アッ

あッ

あッ



はっ…んッ

あんッあッ

ズン

クン

ズン

あんッ



…神楽

ズン

ヤッ…

っあッああ…あ

神楽？…



セッあッ
セッ…ンセ…ッ

あッあッあッ

も…ッ
ダメッ…んッ



かぐ…

あ…

でる…



…センセ…

ん…

キス…









愛の力アルヨ



end

お誘いありがとうございました。
3Z銀神1番の萌えどころは
神楽の進路希望書に「おさなづま」
です。

告清巨 <http://takara.axisz.jp/>





字園樂園



びよん

啞えていた煙草を灰皿に押し付けて、銀八が手招きした。

神楽が僅かに眉根を寄せ、担任のもとへ歩み寄る。

「…まだ、帰れないアルカ」

不満げに口を尖らせる少女の手を引いて、銀八が神楽を膝の上に乗せた。後ろから回された男の腕に、やんわりと包まれて、驚いた神楽がキョロキョロと室内を見渡す。

「…銀ちゃん…職員室アルヨ…？」

遠慮がちに振り返る少女に、「もうみんな帰ったつったのはお前だろうが」と、銀八が素っ気なく答えた。

「それはそうだけど…」と、神楽が所在なさげにモソモソと動く。

煙たいけれど、どこか甘ったるい、完全に二人きりになれる国

語準備室とは違って、多くの人間の所有物が散らばる職員室では、人がいなくても誰かに見られているような気分になった。神楽にとってはあまり馴染みのない場所だけに、どうも落ち着かない。

だが、そんな事はお構いなしに、銀八が頭上でカチリとライトを鳴らし、「明日から夏休みだな」と言つて、一服吸い付けた。それを聞いた神楽が、パツと目を輝かせ、「そうアルナ！」と、はしゃいだ声を出す。

「先生、一緒に帰ろ」

夕日が差し込む時刻になつても、まだなお蒸し暑い職員室に、神楽がひよつこりと顔を出した。入り口から対角線上に位置する窓際のデスクで煙草をふかしていた銀八が、「まだいたのか」と、眠たげな視線を寄越す。

「他の先生は、みんな帰っちゃったのに、銀ちゃん先生だけ、いつまでたつても出て来ないネ」

開けっ放しの戸口にもたれかかった神楽が、腕を組んでプクツと頬を膨らませた。くしゅつと寄つた、真っ白なセーラー服の胸元に、オレンジ色の光が染み込んで、やわらかな陰影をつくる。

「みんな？ 痔主の教師はまだ残つてただろうが」

「うん。でもさつきすれ違つたアル。もう帰つたんじゃないアルカ？」

「どうだかな…」

「でも、あんま会えねえのよ」

「え」

思いもよらぬ一言に神楽が固まった。

「何でヨ……」と陰鬱な声を出す少女を見下ろし、「研修だよ、研修」と、銀八も生気のない顔を見せる。

「研修？」

「あのバカ校長が、勝手に申し込んだみたいですよ。今日になって突然、行って来いって言うんだよ。あの痔主教師と。つーわけで、しばらく帰れねえから」

「帰れないって……どれくらい？」

「二週間」

「二週間？」

銀八を見上げたまま、神楽がポカンと口を開けた。夏休みは、ほとんど銀八の家で過ごす予定だったのだ。その為、夏休み中に行われる『おちこぼれ組』の補習を受けなくてすむようにと、テスト勉強もデート返上で頑張ったのに、研修で二週間も会えないとはどういうことなのか。

銀八が、目の前にある印刷物を、指先でトントンと叩いた。よ

く見ると、研修場所や日程、プログラム内容などの詳細がびっしりと書き記されている。

「んだよ！ あのバカ校長！」

神楽が拳を作って、バンつとデスクを叩いた。

「完全な嫌がらせだよなー。あの触角、ちぎっても、ちぎっても、ちぎり足りねえよ。下の触角もちぎってやろうかな、今度」と、今にも暴れ出しそうな神楽を、一応は押え込んで銀八も頷く。

「銀ちゃん！ そんなのスルーしちゃえばいいネ！ ダメヨ！ 行ったらダメヨ！」

清々しいほど自分を引きとめる神楽に笑みがこぼれた。

「できればそうしたいけどな。ま、二週間経ったら戻るから、おとなしく待っとけ」と、苦く答えて煙草をもみ消す。

「……」

そう言われてしまうと、神楽としては何も言えなかった。本人が真面目に行くつもりでいるのなら、自分は言われた通り、待っているしかない。

「……で、お前はいつから向こう行くの？」

不意に項を指でなぞられ、神楽がピクンと肩を揺らした。

「うーん……パピーから連絡が来ることになってるネ。まだわかん

ないヨ……」と、小さな声で答える。

「そうか……」

そのままゆっくり上下に指を這わせると、神楽の耳が、みるみるうちに赤く染まっていくのがわかった。その反応に目を細めつつ、白い首筋に唇を押し当てる。

「あ……銀ちゃん……」

ため息のように呟いて、神楽が目を閉じた。力の抜けた少女の体を支えるように、両脇からスツと制服の中に手を入れ、なめらかな肌に直接触れる。しっとり汗ばんだ肌が、吸い付くように男を誘った。

「ちよ……待っ……」

耳朶を甘噛みして、器用にブラのホックを外し、やわやわと形の良い膨らみを揉む。指の間に挟んだ小さな突起が、少しずつ上を向いて硬く主張しはじめた。

「ぎ……銀ちゃんは、ホントに所構わずアルナ」

胸をまさぐる男の手から逃れようと、神楽が身を振って心ばかりの抵抗を試みた。

「そうか？ お前だってそうだろ？ 所構わず可愛い声で啼くもんな」と、本気の抵抗でないと知る銀八が、キュッと胸の先端を

摘む。

「アッ……！！」

神楽が甲高い声を出して仰け反った。

「や、やめてヨ……家に帰ってからしようヨ……」と、息を弾ませる。

「ダメ。今日中に研修所入ることになってっから、時間ねえの」

「えっ……そんな急に？」

慌てて振り向くと強引に唇を奪われた。すぐに口内に割り入ってきた舌を夢中で受け入れていると、体の芯が熱くなって、頭がボーっとしてくる。片手で胸を愛撫され、片手で内腿を撫で回され、意識せずとも下半身が潤ってくるのがわかった。

「んっ……はあっ……」

息苦しさに唇を離し、銀八の肩に頭を預ける。スカートの中に入り込んだ手が、ジワジワと中心部に近づくにつれ、羞恥が期待へと変わっていった。瞬間的に、ここが何処かもわからなくなってしまうような熱と疼きを覚える。

「ん……んああ……せんせ……銀ちゃんセンセ……」

「ココ……触って欲しいんだよな？ 神楽は」

下着の上からしつとりと秘部を撫でられ、神楽がふるふると震えた。

「ああ、ダメ……」と喘ぎながら、甘い息を洩らす。

「ダメ……？ ホントに……？」

銀八が神楽の下着をずらし、スツと敏感な部分を撫で上げた。

「あッ……！」

ピクンと跳ねた大腿を開かせて、「……しばらく、できねえよ……」

……？」と、耳に息を吹きかける。

「ん……」と俯いた神楽が、自分の秘所をまさぐる男の手にそつと自分の手を重ねた。

（銀ちゃんのも……おつきくなってるネ……）

腰にあたる銀八の熱の塊が一層神楽を煽った。二週間会えないと聞いただけで、体は急速に熱を帯び、その先の快楽に浸ることだけに意識が集中してく。

軽く視線を落とすと、銀八の指が自分の足の間で触手のように動いているのが見えた。耳を塞ぎたくなるような淫らな水音と、立ち上る愛液の甘酸っぱい匂いに頭がクラクラとする。

（早く挿れて欲しいアル……）

勿体つけるような愛撫に我慢ならなくなり、銀八のもので貫かれる自分を想像し、ぎこちなく腰を揺らした。

「何その動き……エロ過ぎだろ……」

頭上で低く笑う男の声が響いた。銀八が、彼の手に性器を擦りつけるように動く自分を見て、いやらしく口の端を上げていることは容易に想像できたが、体は疼く一方で止まらない。

「んっ……んっ……」と、もどかしく動いて、より強い快感を得ようと脚を開く。

「……もう、挿れちまおつか。メチャクチャに突いてやつから」ゾクリとしたものが背中を駆け抜けた。答える間もなく机に両手をついて立たされ、あっけなくショーツを脱がされる。

「足……ここに乗せろ」

「あ……」

片足を持ち上げられ、デスクに乗せる格好となった。カチャ、とベルトを外す音が聞こえたかと思うと、すぐに後ろから昂ぶりを押し当てられる。

（熱い……）

そう思っている間に、ズブズブと秘肉を押し割られ、「あっ……あああ……！」と、神楽が嬌声を発した。デスクの上の白い紙が、少女の手でクシャリと潰される。

桜色に上気した尻を撫でながら、根元深く自身を埋め込んで焦れつつ腰を回す。これまで何度も教師を迎え入れた少女の体内は、侵入してきたそれをきつく締め上げながら、奥へ奥へと誘うように魅惑する。

「すげ…神楽ん中、もうトロトロ。いきなり先生の挿れちゃつても気持ちいいんだ…随分エロくなったなあ…」

「ああっ…お…奥まできちちゃつたヨ。銀ちゃん…」

かろうじて床についている方の足をガクガクと震わせ、少女が快感の波に耐える。細い身体を両腕でしっかりと抱きしめて、大きく腰を打ちつけると、静まり返った室内に切ない声が響いた。

これでもかという程、自身で膣内をかき乱し、秘芯をデスクに擦りつけるように揺さぶると、結合部からドツと蜜が溢れた。机に上がっている方の大腿部に指を食い込ませて押さえつけ、ギリギリまで引き抜いては根元深くまで突き入れる動作を繰り返す。

部屋の奥へと伸びる二人の影が、同じように蠢くのを見ていると、言いようのない興奮を覚えた。

「先生の机、神楽のやらしい液でべとべとになっちゃうな。どうするよ？」

斜め下から少女の体を突き上げるように責め立て、銀八が意地

悪く笑った。グチュツ、グチュツ、と擦れる淫らな水音に耳を澄ませながら、衝撃に震える腰を掴んで前後に揺らす。

「んっ…あっ…ぎっ…銀ちゃんがっ…銀ちゃんが悪いネッ…！」

神楽が息を弾ませ途切れ途切れに答えた。銀八がククツと喉を鳴らし、小刻みに律動を開始する。

「あっ…!! あっ…!! やあっ…!! 銀ちゃんっ…銀ちゃんっ…!!」

銀八が動くに連れ机がガタガタと揺れ、行為の激しさを露骨に示した。スカートを捲り上げ、愛液にまみれた自身が生々しく出入りするさまを眺めていると、少女の体内で己がますます膨れ上がるのを感じる。

「机にクリ擦り付けて、立ったままぶち込まれて、イッちゃいそうなんだよな? 神楽は」

「やあっ…やめてえっ…」

「やめてじゃねえだろ。濡れまくってんだろ? ほら…こっちも下と同じ音出してみろ」

「んんっ…んふっ…」

ゴツゴツとした二本の指を神楽の口内に押し込んだ。下半身と同

じように、口内をも陵辱する男の指に、神楽が夢中で舌を絡める。

もう一方の指先を、デスクに密着している秘部との間に忍び込ませ、充血していきり勃った芽を指の腹で直接刺激してやると、

「ひゃあああつ……！」と、神楽が悲鳴のような声をあげた。

それまで食欲に動いていた舌の動きが徐々に鈍くなり、一気に頂点に向かう彼女の限界を見て取った銀八が、少女の最も弱い部分を狙い打つ。

「あつ……！ あつ……！ 銀ひゃ……！」

自由のきかない体勢ながら、神楽が後ろに手を回し、柔らかい銀髪に指を通した。愛しい男の頭を引き寄せ、自らも狂おしく腰を揺らす。

「噛んでも、いいんだぜ……？」

指の腹で歯列をなぞると、神楽がイヤイヤと頭を振った。

「んっ……らめっ……！」と、目に涙をためて、男の指に歯をたてないよう、懸命に耐えるところがいじらしい。健気に頭を振り

続ける恋人の頬にチュツと口づけて指を抜いてやった。

「おら、好きだけ啼けっ」

両腕で拘束するように抱きしめて、狂ったように腰を打ちつけ

る。

「ふあつ……あああつ……！ 銀ちゃん、ダメえええつ！ イツちゃ
うヨツ……！」と、半狂乱となった神楽が涙を流した。

「……っ……はっ……イけよ、神楽っ……イツちまえっ……！」

「あつ……！ 銀ちゃ……銀ちゃ、あああツ……！」

デスクの上に、不安定に積み重なっていた資料がバサバサと崩れ落ちる中、二人は頬を寄せ合って昇りつめた。

*

「あ……暑い……」

大量の買い物袋を両手に抱えた神楽が、汗だくになって自宅アパートへと戻って来た。ドアを開け、サンダルを脱ぎ捨て、冷蔵庫の前にドサツと荷物をおろし、古めかしい扇風機のスイッチを押す。カラカラと、今にも羽が落ちてしまいそうな危うい音を背

に、買って来た食材を収納するべく、目の前の扉を開けた。

(最近、食費が瞬く間に消えていくネ。ストレスアルかな)

庫内から流れ出る冷風に目を細めつつ、肉や野菜を手当たり次第にギューギューと詰め込む。一人暮らしの少女にしては大きめな冷蔵庫が、あつという間にいっぱいになり、中の物が崩れ落ちてくる前に急いで扉を閉めた。

ひとまず、これでやることなく、フウツとため息をつく。

銀八が研修へ行って一週間。

日中は、夏バテ気味の定春と川原へ行ったり、時たまクラスメイトと出かけたり。夏休みを満喫していると言えぼしているような、ダラダラ過ごしていると言えぼするような、どこか気の抜けた毎日を送っていた。

しかし、これでようやく折り返し地点。銀八が帰って来るまであと一週間あるわけだ。

(そういえば私、銀ちゃんとこんなに離れてたことなかったネ……) 生ぬるい送風を受けて、パタパタと揺れるカレンダーをぼんやりと眺めた。

元々銀八とは、学校で毎日のように顔を合わせていたし、つき

合うようになってからは、土日や放課後も一緒にいることが多かった。最近では全く顔を合わせない日の方が珍しいくらいだ。それがこの一週間、メール・電話は一切なし。顔を見るところか声さえ聞いていない。

悲しくも沈黙を続ける携帯電話を開いて、片眉を上げた。

(何で連絡くれないネ……) である。

普段から、互いに携帯で連絡を取り合うことはほとんどなかった。それくらい、行動を共にすることが多かったからだ。

けれど、今は違う。研修とやらが例えどんなに忙しくても、少しくらい、一人で待っている自分のことを気にかけて欲しかった。そうになると、元来の気の強さが出てきて、絶対にこちらからは連絡を取らないという、つまらぬ意地を張ってしまう。

「こんな可愛い恋人放ったらかしにして、バチが当たっても知らないアルヨ」

床の上にゴロリと寝転がって目を閉じた。体を横にして、「浮気してやる……」と呟いてみたものの、先日の職員室での出来事が脳裏に浮かび頬が熱くなる。か細い腕で自分の肩を抱いてみたが、やはり物足りなかった。大きさも暖かさも温もりも、絶対的な安

心感が欠けている。

……それなのに。

男というものは、やることさえやってしまえば満足する生き物なのか。

傍らに置いた携帯電話に、もう一度視線を向ける。

「もうっ！ あいつホントに研修アルカ？ 研修とか言って、実は水着の女とやらしいことでもしてるんじゃないアルカ！」

ガバツと起き上がって、メキツと携帯をへし折ろうとしたところで着信音が鳴った。ハツとした神楽が、「銀ちゃん？」と叫んで、携帯を耳に押し当てる。

しかし、受話器の向こうから伝わってきたその声は、期待していた男のものではなかった。

「……パピー……うん……うん……わかったヨ……」

*

「だからよー。読解力だ、何だっつったって、結局のところなんもん、書いた本人にしかわかんねえもんなんだよ。どんなに優れた作品でもよオ、『実はアレ、母ちゃんとケンカしてムシヤクシヤして書いたから、読者に伝えたいことなんて何も無い！』とかあるかもしれないじゃん。むしろそういうこと想像してた方が面白くない？ 何だよ、単なる作者のストレス発散かよ、みたいな。そしたらテストもラクだぜえ。口頭試問で俺を笑わせてくれたら卒業。つまんねー妄想だったら落第」

研修も残り三日となった。

一日のプログラムを終えた銀八が、別の教室から出てきた服部と自然と合流する形となり、毎日繰り返される洗脳的な研修に対する愚痴や不満を語りながら、ダラダラと自室に向かう。

「…アンタ、それでよく教師になれたな。てか、何で国語教師になったの？ そんなんだから、こんな薄汚い研修所入れられんだよ」

「今、この場にいるオメーに言われたかねえんだよ。どうせオメ

―も坐薬の挿入方法とか、くだらねえ授業ばっかしてっから研修所送りになったんだろが。仕事なめてんのか、お前は。坐薬くらい、俺だって挿入できる」

「誰が坐薬の授業なんてするか！ いちいちムカつく野郎だな！」

毎度のように続く、身も蓋もない言い争い（？）に辟易した様子で服部がため息をついた。それは銀八も同じで、二人はそれ以降、会話をすることもなく、古びた研修所の廊下を進んでいく。

研修所というよりは、何かの収容所とでも言った方が早いかもしれない。部屋は隣を歩く痔主教師と相部屋だし、備え付けのクーラーからは、煙草の煙より悪影響を及ぼしそうなカビ臭い空気が流れてくるし、トイレ・風呂は共用で、食堂も飯もマズイ。

まだ日程は残っているけれど、こんなところで二週間、よく耐えたものだ、銀八は自分で自分を褒めてやりたい気分だった。

（とりあえず、帰ったらタコウインナーが食いたい。あ、ダメだ。相当病んでるな、俺）

ブンブンと頭を振って、気持ちを切り替えようとした。愛しの……なんて言えるのかどうかはわからないが、「銀ちゃん、銀ちゃん」

とまとわりつく小さな恋人のことが頭から離れない。

正直、彼女との再会が怖い。言い換えれば、二週間分の欲望をぶつけてしまいそうな自分が怖い。

「あ、やべ……もよおしてきた」

部屋の前に辿り着いたところで、服部が腹を押さえて言った。

「……やめてくんねーかな。お前のシモの状況なんざ、知りたくもねえんだよ。さっさと便所行って来い」と、銀八が冷たく言い放ちガチャガチャと鍵を回す。

「すまねえ。でも坐薬持ってかなきゃ」

「だからよオ、もういい大人なんだから、うんこだ、座薬だ、いちいち言うなや」

うんざりとした表情でドアを開けた銀八が、部屋の中を見て固まった。

「銀ちゃん、来ちゃった」

「……」

簡易ベッドに腰掛けて、片手をヒラヒラと振る少女を見て、バ

タン、と勢いよく戸を閉める。

(なななんだ今のは。見間違いか？ 見間違いだよな？ チヤイナ娘の怨念か？ 来ちやっただってお前、来ちやっただってお前、来ちやっただって、ええええええっ？)

一気にパニックに陥った銀八の後ろで、やや前傾姿勢の服部が首を傾げた。

「どしたの坂田先生？ 俺、早く坐薬取りてえんだけど」と、情けなくも片手で尻を押さえる。

「いや…別に坐薬いらねーじゃん。あとでもいーじゃん。とりあえず便所行って来いよ」

銀八が、ヒクツと口角を上げて振り向いた。

「何だよ、それ？ 中に誰かいんの？」と、尋ねる服部を無視し、スルリと部屋に入り中から鍵をかける。

「ちよっ！ オイツ！ 何やってんだよ？ 何の嫌がらせだよ！ 坐薬うう！ 俺の坐薬うう！」

締め出しをくった服部がドンドンとドアを叩いた。

「うっせーよ！ 後で持ってたってやるよ！ ゴツ、ゴキブリだ！ 超でけえゴキブリだ！ 超強力な殺虫剤で、殺っちまわねえといけねえから、とりあえずお前は便所行け！」と、銀八がドア越し

に叫ぶ。

「はあ？ 何ワケのわかんないこと言って…ぐああつ！ もうダメだ！ チキショー、後で絶対持ってきて来いよ！ 俺トイレ行くからね？ マジお願いよ？」

慌しく駆けていく服部の足音に耳を澄ませ、銀八がホウツと息を吐いた。そのままゆっくりと顔を上げ、タラリと汗を流す。

それとは対照的に落ち着き払った神楽が、「私はゴキブリじゃないアル」と抑揚のない声で言った。

「…お前、何しに…つか、どっから入って来た？」

「窓から。鍵開いてたヨ。物騒ネ」

「開いてたってお前、ここ2階だぞ」

「問題ないネ。一部屋、一部屋、銀ちゃんのカバンのある部屋探すのは大変だったけど、愛の力ヨ」

「何が愛の力だ」

銀八が、片手で額を押さえた。

ヒラヒラとしたワンピースに、薄手のカーディガン。ふたつに分けて結んだ桃色の髪。こんな、どこぞのお嬢さんスタイルで、この娘はまた研修所の窓に張り付いて、部屋を覗きまくるなどと

いう、やんちゃなマネをしてくれたらしい。

「いくらなんでもヤベーよ、お前。研修所に生徒がって、しかも女の子一人でって、だいたいここは、俺一人の部屋じゃねえの。」

服部先生と相部屋なの」

「マジでか」

神楽が乏しい表情で答えた。

「でも私、銀ちゃんに会いたかったネ。顔が見たかったヨ」

そう言って近づいてきた神楽が、銀八の背中に腕を回し、ピツタリと身を寄せてきた。落ち着いて見える外見とは裏腹に、早鐘のように打っている鼓動が伝わってくる。僅かに上気した肌、いつもと同じシャンプーの香りが鼻をくすぐった。

「銀ちゃん……」

「……」

欲しくないわけではない。

ここまでやって来た彼女が、可愛くないわけではない。

それでも、自分が求める再会の形とは違っていた。彼女は、自分よりはるかに年下なのだから、未熟な部分が多いのは当たり前だが、今回のこの行動はあまりに軽率過ぎる。

小さく息を吐いてから、柔らかい腰に腕を回し、少女の体を静かにベッドに横たえた。何も言わずに唇を重ねて、無防備な大腿を撫で回す。

「……あ……」

白いレースのついた下着をスルスルとおろして唇を離した。

「せんせ……?」

戸惑いながら見上げてくる神楽に、「時間ねえからな」とだけ言って、中心部へ顔を埋める。

「ひゃっ……!」

ザラリ、と直接的な愛撫を受けて、神楽が背中を反らせた。唾液をたっぷり含ませた舌の先で、敏感な芽を掘り起こされ、少女の下半身が無意識に震える。

「あッ……はあッ……銀ちゃ……」

秘芯を甘く吸い上げながら、指先で入り口を何度もなぞる。わななきながら蜜をたらすその部分に、ツブン、と2本の指が挿入された。

「あッ……!」

硬い秘芯を舌で弄ばれ、膣内の敏感な箇所を長い指で擦られ、待ち焦がれていた久しぶりの快感は、予想以上にあっけなく神楽

を絶頂に導いた。

「んッ……！ あああッ……！」と、声を殺してシーツを握りしめ強い快楽を受け入れる。

「……っ……はあっ……ぎ、銀ちゃん……イツちやったアル……」
目を閉じて余韻に浸ったまま、神楽が弱々しく呟いた。ベッドがギリリと鳴って銀八が顔を上げる。引き抜いた指に絡み付いた愛液が、淫らに糸を引きシーツを濡らした。

「満足したか……？」

「え……？」

冷めた口調に不信を感じ、神楽が目を開けた。

「満足したら帰れ。あと、たった三日だぞ？ 男の出先まで追いかけて来るようなマネすんな。お前はホントはそんな女じゃねえだろ？ 夏休みだからって浮かれてんじゃねーぞ」

「……」

シーツを掴んだまま、ジッと銀八を見上げた。今までにない厳しい口調。責めるような視線。昂ぶっていた感情が急速に冷めていくのがわかった。これではまるで、自分が性欲を満たすためだけにここへ来た、ということになってしまわないか。

自分はただ、銀八に会いたかっただけなのだ。それを伝えなければと思ったが、喉の奥がぐっと熱くなり言葉にならなかった。

パピーが……と言いかけ、口をつぐむ。研修中、これまで一度も連絡をくれなかったくらいなのだ。どんな理由があっても、ダメなものだと言われるに決まっている。

ゆっくりと起き上がって、すぐごと窓辺に近づき、「悪かったヨ。ちよっと顔が見たかっただけネ」と、振り向きもせずと言った。その小さな背中を銀八が無言で見つめる。

次の瞬間、神楽がスッと視界から消えた。何とも言えない空気が漂う中、銀八がボリボリと頭をかいて窓へ近づく。このまま一人で帰ってしまった方がいいものか、やはり迷うところはあつて、身を乗り出して階下を覗き込んだ。

「……？」

地上に降りた神楽が、木陰からポストンバックを引っ張り出し肩にかける姿が見えた。ちよっと顔を見に來ただけ、と言うわりには大荷物だ。

神楽、と呼び止めようとしてやめた。周囲に気づかれればそれで終わりだからだ。

歩き出した少女の影は、どんどん小さくなっていき、研修所の裏に広がる木立が並ぶ公園へと消えていく。

「……まったく、しよーがねえな」

軽く舌打ちして、銀八が窓枠に手をかけた。

*

「あのバカ天パが、あんな仕事人間だったとは思わなかったネ。つまらない男アル」

薄暗い公園の細道をズンズン突き進んで、神楽がひとりごちた。

「あんなことしてもらいたくて、行ったんじゃないのに」と、流れてくる涙を手の甲で拭う。

「もう、帰って来ないからな！」と顔を上げ、ピタリと立ち止まった。

「……パンツ忘れた」

ついさつき脱がされて、そのまま出て来てしまったのを思い出した。気づけば、スカートの中がスースーとして気持ち悪い。キ

ヨロキヨロと辺りを見回して、人がいないことを確認し木陰に隠れた。銀八のいる研修所に戻るつもりはなかったので、ポストンバックから新しい下着を取り出しソロソロと足をとおす。

「オイイイ！ 何やってんだ、オメーはああっ！」

突然の怒声に驚いた神楽が、体勢を崩して倒れこんだ。表の道からズカズカと入り込んで来た男に、腕を掴まれ引き起こされる。

「お前、ホントどうしちゃったの？ こんなところでパンツ脱いで何する気ですか！」

そう言って顔を覗き込んできた銀八に瞠目しつつ、「脱いでないヨ。はいてたネ」と、神楽が答えた。

「はいてたあ？」と、銀八が片眉を上げる。

「そうヨ。さつき銀ちゃんに脱がされて、そのままあの部屋に忘れてきちゃったから、新しいのははいてたアル」

「だからって、オメーよお……」

銀八が苦りきった表情で神楽を見つめた。どこまでも無防備なこの少女を一体どうしたらよいものか、さすがの彼も閉口する。

自分の目の届かないところで、何をしでかしてくれているか、全くわかったものではない。

「……とりあえず、駅まで送ってつから」

ぶつきらぼうにそう告げて、銀八がポストンバックを肩に担いだ。ズシリとした重みを感じ、「随分重いのかな。どっか行って来たの？」と、不機嫌に問う。

「行って来たんじゃないなくて、これから行くネ」

「あ？」

「パピーから連絡あったヨ。仕事ひと段落したから帰って来いって。だから、今日の最終便で中国帰るアル」

「……」

表通りへ出ようとしていた銀八の足がピタリと止まった。多忙な父ゆえ、神楽の帰国はもつとずつと先の話だろうと彼は思っていたのだ。

「ほら、わざわざ飛行機のチケット送ってきたアルヨ」

外灯の淡い光の下で、神楽がチケットを差し出した。銀八が、ポストンバックを地に置いてそれを受け取る。

「もう、夏休み終わるまで会えないから、その前に銀ちゃんの顔見て行きたかったネ」

「……」

静かに笑う神楽を見て何も言えなくなった。手元のチケットに

視線を落とし、しばし黙り込む。

「……それなら、そうだって言えよ」

フツと口元を緩め、銀八がためらいもなくチケットを破いた。

「ちよっ……!」

ハラハラと地面に落ちていく紙切れを、神楽が呆然と目で追う。

「あのハゲには悪いけど、今回の帰省はナシにしてもらって」

「パピー、怒るアルヨ？ 怒って日本に来るかも」

「いんじゃないね？ 娘に会いたきや、テメーが来いって話だろ」

「……でも……」

「いーから、お前はあと3日、おとなしく待ってりやいいんだよ」

「……嫌アル。私は中国帰るネ。銀ちゃんは勝手ヨ。今まで何も連絡くれなかつたくせに実家には帰るなって」

「連絡？」

「そうヨ。メールも電話もくれなかったアル」

「ああ……しよーがねえだろ。携帯止められちまってんだから」

銀八が悪びれる様子もなく言った。

「えっ、何でヨ？」

「何でってオメー、金払ってねえからだよ」

「なっ」

神楽がキツと銀八を睨みつけた。

「何で払ってないネ？ 煙草買う金はあるけども携帯代は払えないアルカ？ パチンコ行く金はあるけども携帯代は払えないアルカ？ いい年こいて何やってるネ、お前ええ！」

神楽が、銀八の首をガツと掴んで、怒りに任せてブンブン振った。

「うぐっ！」と、顔色を変えた銀八が、なす術なく揺さぶられる。

「バツカおめえ！ お前とつき合うようになってからパチンコなんて行ってねえだろうが！ テメーが暇さえありや、ラーメンだ焼肉だうるせえから、金貯まんねえんだよ！ ボーナスも丸々お前の食費に持ってかれたんだぞ！ 俺ア、女にここまで金絞り取られたことねーよ！」

銀八の言葉を聞いて、神楽がピタリと手を止めた。

「わ、私の食費？」と叫んで、大きな目をさらに見開く。

「そーだよ。お前は天然で、金と食料が繋がってねえみてえだけどな。食欲といい、性欲といい、底が知れねえんだよ。とんでもねえ女だ」

「……」

言われて初めて気づいた。銀八は腐っても社会人。毎日のように寝食を共にするような仲になっても、食費など神楽に請求することは一度もなかった。神楽も自分で食材を買って、銀八の家に持ち込むこともあったが、実際は、圧倒的に彼の世話になっていることの方が多いのだ。

「……ごめんアル。私、銀ちゃんのこと、食べ物配給マシンだと思ってたネ」

「んだとコラ。もういっぺん言ってみろ」

銀八が額に青筋を立てて、神楽の頬をギョツと掴んだ。

「嘘アル。ごめんネ」と呟いて、神楽が銀八の首に腕を回す。

密着し、伝わってくる体温に眩暈を覚えた。細い体を両腕に包んで、どちらからともなく唇を重ね合わせる。

「……神楽。三日間、動けねえようにしてやつから」

逃がさないとばかりに少女をきつく抱きしめ、銀八が低く笑った。

＊

草原の上に、半ば強引に押し倒して、久々の甘い感触を確かめ合うように、角度を変えて何度も口づけた。足の間に膝を割り入れ、スカートの中の柔らかい膨らみを押し上げる。

「んあ……はあ……」

酸素を求めて薄く開いた唇を舐め、再び口内を舌で犯しながら、カーデイガンの内側に手を差し入れてスルリと脱がせた。露になった白い肩に軽く歯を立て、手の平でゆっくりと下腹部を撫でさせる。子宮をくすぐられるような感覚に、神楽が「あっ……」と、声を洩らした。

「もう、濡れてんだろ……」

「や……」

「さっきも、すぐイッちまったもんな。気持ちよかった？」

銀八がグイッと腰を動かした。硬くなった男のソレを下着の上から押し付けられただけで、神楽の体はピクンと跳ねた。耳元にかかる吐息も声も、触れる唇も指先も、全てに煽られ、狂わされそうになる。

片手でブラのホックを外し、ワンピースの薄い布越しに乳首を

口に含んだ。唾液を垂らしながら、舌先で弄び、時折強く吸い上げる。

「んんっ……銀ちゃん……いやあ……」

刺激を与える度に、神楽の体は大きくうねった。はいたばかりのショーツを片側だけ脱がせ、大腿を強く押し開く。足の付け根を指先でなぞると、濡れた臍口がヒクヒクと蠢いて、男の欲情を更に煽った。

「やっ……銀ちゃん、恥ずかしいネ……」

「恥ずかしい？ 感じてるの間違いだろ？ ヒクついてんぞ」

赤く充血した秘芯を優しく指で挟むと、神楽が顔を横にそむけ、手の甲を口元に押し当てた。目をギュッと閉じて、迫りくる快感に堪えようとする少女を満足げに見下ろして、蜜を流し続けるその場所へと唇を寄せる。

「ふあっ……！ ダメッ……！ あっ……！」

チュル、と音を立てて吸い上げながら激しく舐めまわすと、ぶつくりと勃っていた芽が、口内でますます膨れ上がるのがわかった。臍内へも深く舌を差し入れて、溢れ出る蜜を絡め取る。

「んっ……んあっ……あっ……あっ……ああッ……！」

絶妙な舌の動きにたまりかねた神楽が、肘をついて上体を起こ

した。

「ぎっ…銀ちゃんっ…それダメヨっ…！ おかしくなっちゃうネッ…！！」と、片手を銀八の頭の上に乗せて、自分の意思とは無関係に大きく腰を揺らしはじめる。

己の下半身に顔を埋めて愛撫を続ける男と目が合った。獣じみた情欲のこもった目で射抜かれ、意識さえもっていかれそうになる。トクトクと溢れ出る蜜を全て吸い上げられる音と感触に、背中をゾクゾクとしたものが走った。

「んっ…！ んんんっ…！ っうああんッ…！」

仰け反りながら大腿で銀八の頭を挟み込み、ユラユラと前後に腰を揺する。数秒息を止めて硬直したあと、「…っはあ……」と、大きく息を吐いて、崩れるように手足を投げ出した。

「……また、イツちゃったんだ…」

愉しげに口の端を上げた銀八が、ペロリと唇を舐めた。

「銀ちゃん…」と、懸命に呼吸を整え、神楽が男を見上げる。

「…俺もたまってたんだよね。気持ちよくしてくれる？」

くったりと仰向けになったままの神楽の顔の上に銀八が跨った。

少女の目の前で、振り返った自身を取り出し、無遠慮に唇に押し

付ける。既に先端から滲み出ていた液体が、少女の唇を濡らし妖しく光った。

「喰え」

両手を地面につき、体重をかけないようにしながら、怒張したそれを口内へ沈めていく。

「ふあっ…」と、くぐもった声をだしながらも、神楽が舌を絡めて受け入れた。

「…っ…あったけえ……」

すぐにでも欲を吐き出してしまいたい衝動を抑え、上下にゆっくりと腰を動かす。ジュルッジュルッ、と卑猥な音をたて、自身の性器で少女の口内を犯していく。

「んっ…んぐっ…んっ…」

ドクドクと脈打ちながら、何度も出し入れされる銀八のものに必死で舌を絡ませた。溢れた唾液が、口の端から零れていくのも構わず両手を添えて更にしごく。

「く…あ…神楽っ……」

少女がもたらす予想以上の刺激に耐えかねて、銀八が遠慮なく腰を使いはじめた。

「たまんねえ…」と、呻くように呟いて、膣内を責め立てるとき

と同じように抽挿を繰り返す。

「ふっ…あっ…ぎんひや…」

「神楽…かぐらっ…1回出すぞっ…っ…!」

ドクン、と膨れ上がった塊を、欲に任せて少女の喉に押し付け大量の精液を放った。

神楽の口内から自身を引き抜いて、白い糸の垂れる口元を指先で拭いた。コクン…コクン…と音を立てて上下する喉元を愛おしく眺めてから、側にある大木に手をついて立たせる。

「…次はどうして欲しいか言えよ」

神楽の背後に回って、服の上から胸を包んで揉みしだく。

「銀ちゃん…意地悪しないでヨ…」

振り返った神楽が潤んだ瞳で見上げてきた。

「…俺はね。お前が俺にどうされたいか、お前の口から直接聞きたいだけ」

「……」

一瞬、押し黙った神楽が、顔を赤らめて俯いた。ワンピースの裾をキュツと握りしめ、ソロソロと捲り上げる。

「こ…これじゃダメアルカ…」

下着をつけていない、腰から下の素肌が露になった。

「来てヨ…」と、消え入りそうな声で吹き唇を噛む。

「…そんな誘い方まで覚えたの」

クチュ、と音を立てて、銀八が神楽の体内に指を滑り込ませた。

「ふあっ…」と、仰け反った神楽に構わず、グチャグチャと膣内をかき回す。

「んっ…銀ちゃっ…指イヤあっ…」

「…欲しいか？ コレが」

指を抜いて、震える腰を引き寄せた。後方から濡れた入り口に自身をあてがい、先端を軽く埋め込ませる。

「ほら、お前がケツ突き出して自分で挿れんだよ」

「あっ…ん…」

銀八に背中を押され、神楽が上体を倒す形となった。目の前の大木に縋りつくように爪を立て、銀八の方へ向かって尻を押し付けていく。

「あ…ぎ…銀ちゃ…」

メリメリと圧倒してくる銀八のものが、凶器のように感じられた。ガクガクと足を震わせながら、「もうダメ…入らないネ」と、

涙目になって訴える。

「…入らねえわけねえだろ」

「あああつ！」

不意に最奥まで貫かれ、神楽が思わず腰を引いた。

「逃げんなよ」と、男が笑ってその腰を掴み、容赦なく動きはじめる。肉と肉のぶつかり合う音が、静まり返った夜の公園にこだまする。

「あつ…あつ…銀ちゃんっ…！ そんなに激しくしちゃダメヨツ…！」と、神楽が髪を振り乱した。

強制的に眠らされていた欲望が、一気に噴出するようだった。久しぶりの行為なのだから、優しくしてやりたい気持ちはあったが、一度呼び起こされた本能は、自我と関係なく淫らな性欲の解放へと突き進んでいく。

「…お前が、ちゃんとおとなしくしてれば、俺はこんな事しねえよ？ 神楽」逃げる腰をガツシリと固定して、膨れ上がった男根を力強く叩きつける。

「うっ…！ あつ…！」

「んなヒラヒラしたもん着て夜出歩いたり、研修所の壁よじ登つ

たり、俺に黙って実家帰ろうとしなきゃ、こんな事しねえって」

結合部から飛び散る液体が、銀人のTシャツやジーンズに染みを作り、神楽の内腿を流れ落ちた。硬く尖った胸の先端を指先で觸り、背中に舌を這わせ、あらゆる場所に己を刻みつけるように愛撫する。

「あつ…うあつ…銀ちゃあああん」

「…ちゃんと家で待ってられっか？」

「うんっ…うんっ…待ってるヨツ…！」

顎を取って自分の方に向けさせ、唇を覆った。きゅう、と膣内が収縮して銀人を余裕なく締め付ける。

「おい、こっち向け…」

張り詰めた自身を抜き去り、少女の体をクルリと反転させ、足を持ち上げ下から突き上げた。

「アッ…！」と、開いた唇を塞ぎ、貪欲に舌を絡めあつて、本能のままに少女を揺さぶる。

「ああつ…気持ちイイヨ…すごくイイネ…」

神楽がトロンとした目で銀人を見つめた。

「…そんなにイイか。イキそ？」と、限界の近い銀人も苦しげに



笑う。

「んっ…もうダメっ…！ いつもみたいに突いてっ…」

「あ、そ。じゃ、遠慮なく」

銀八が神楽の足を抱え直し、彼女の首筋に顔を埋めてラストスパートをかけた。ギユウギユウと締め付けてくる秘肉を突き破るように摩擦を繰り返す。

真夏の夜の蒸し暑い空気に、男と女の吐息や体液が溶け込んで、異様な熱気を帯びていた。互いの体を貪ることだけに集中し、湧き上がる快楽に倒錯していく。

「んっ…んあああっ…好きヨッ…！ 銀ちゃん、好きヨッ…！」

銀八の腰に開いた両脚を絡みつけ、ずくずくと打ち付けられる衝撃に奮えながら、少女が歓喜の声を上げた。

わいながら、時間の感覚もわからなくなってしまふほど、されるがままに揺さぶられる。

騎上位となった神楽を下から散々騎つたあと、草の上に押し倒し、未だ熱の冷めぬ自身を突き入れ思いのたけをぶちまけた。責めても、責めても、まだもの足りないような気がして、真上からのしかかって少女を犯す。

「あっ…あああっ…銀ちゃんっ！ ぎっ…！！」

喉を反らせた神楽が、ビクンビクンと大きく痙攣し、とうとう意識を手離れた。乱れきって気を失った少女を更に蹂躪して、自らも白濁を注ぎ込む。

「…っ…」

鈍く収縮する少女の体内で満足いくまで余韻に浸り、ゆっくりと腰を引くと、ぼっかりと穴の開いた膣口からドロリとした液体が溢れた。互いの汗や体液で、衣服が肌にピッタリと張り付いて気持ち悪い。

「あッ…あッ…あッ…銀ちゃんっ…もう無理ヨッ…！」

一度ならず二度三度、膣内で射精しても、そのまま抜かずに何度も責められた。気が遠くなってしまうような絶頂を繰り返す味

「神楽…だからおとなしく待ってっ…」

乱れた髪を優しく梳いて、静かに唇を重ね合わせる。

そのまま深い眠りについてしまった少女を見下ろし、「…三日、

動けねえって……ここで動けなくしてどうすんだよ……」と、我に返った銀八がガツクリと頭を下げた。

ねーよ。どうしてこうなるのか、わかんねえ」と首を傾げる。

＊

「やあ、すいませんでしたね、どうも」

一方、研修所で締め出しをくった服部は、所員に合鍵を借りて、ようやく室内へ入ることが出来た。

しばらく考え込んで、ククツと喉を鳴らした。
夏休み前日、他の生徒や教師はとくに帰ったというのに、一人の少女と廊下ですれ違ったのを思い出した。自分は玄関へ。彼女は職員室へ。あの日、あの時刻、職員室に残っていたのは、不本意ながら、今回ともに研修を受けることになった、白髪天パの国語教師。

「あれ？ 坂田先生？」と、ひと気のない室内をキョロキョロと見回し、坐薬を求めて自分の荷物を探る。

「……年下の彼女かあ……てか、教え子？ マジでか。これで残りの

「……ん？」

簡易ベッドに腰掛けた服部が何かに気づいた。足元に落ちていた小さな白い布を取り、思わず顔を赤らめる。

日程、退屈しなくて済みそうだな」
そう言っつて、ニヤリと口の端を上げた服部が、神楽の下着を銀

「えっ……何コレ。パンツ？ 女もののパンツ？」と、一人動揺し、辺りを見回したが、やはり室内は自分の他に誰もいない。

ただ、窓が大きく開いていて、安物のカーテンがユラユラと揺れていた。その窓と手にした下着を交互に見つめ、「いや、わかん

+++

銀神っていいですね。こんにちは。

この度は、3 Z 銀神 18 禁アンソロという夢のような企画にお誘い
頂きありがとうございました。

当方の銀八センサーはS度高めということで、この作品に関しては
好き嫌いがはっきり分かれるような気もするのですが、一部、いえ
かなりの方に不快な思いをさせてしまっていたら申し訳ありませ
ん。

けれど、個人としてはとても楽しく参加させて頂きました。
作者の拙い文章に最後までお付き合い下さった皆様、お粗末様でし
た。

そして主宰の坂田あかりさん、文字だらけの地味～な世界に挿絵と
いう華を恵んで下さりありがとうございました&本当に本当にお
疲れ様です。

あ、余談ですが、今回、服部先生じゃなくて坂本先生でもよかった
のですが、坂もっさんは普通に神楽のパンツ被ったりしてそうなの
でやめました。

ではでは

びよん

+++





んつとにこの娘は
ちよつと覚えたら
先生の都合
お構い無しですか？
コノヤロー



昼休み入った途端
来て早々に

弁当そっちのけで
コレかよ

神楽あ そんなに
美味いか？





なんで
何も言わないで
三日も出張
行ったアルか？

あれ？
言って
なかったっけ？

言っ
て
ないヨ！



つーか
なんでお前に
報告いるの？

だ、だ、だ……

焦らしプレイだ
バーカ



淫乱神楽ちゃんは
三日も出来ないアルか
(真由)

ってか？

どうして
わざわざムカつく
言い方するアルか？



そりゃ毎日のように
アレしてりゃな
身体は正直だよ

おらっ
ココ座って

足開けよ

あっ

ぐいっ

ぐちっ



はあ

はあ

面白いくらい
予想通りの反応...



はあ

9/130

10/130



くち



予想通り：
そりゃ予想もつくよな



パツッ パツッ

すんげー
締め付け

あゝ

あゝ

神楽ちゃんは
コレが欲しかった
んだもんね？

あゝ

あゝ

あゝ

あゝ

あゝ

あゝ

あゝ

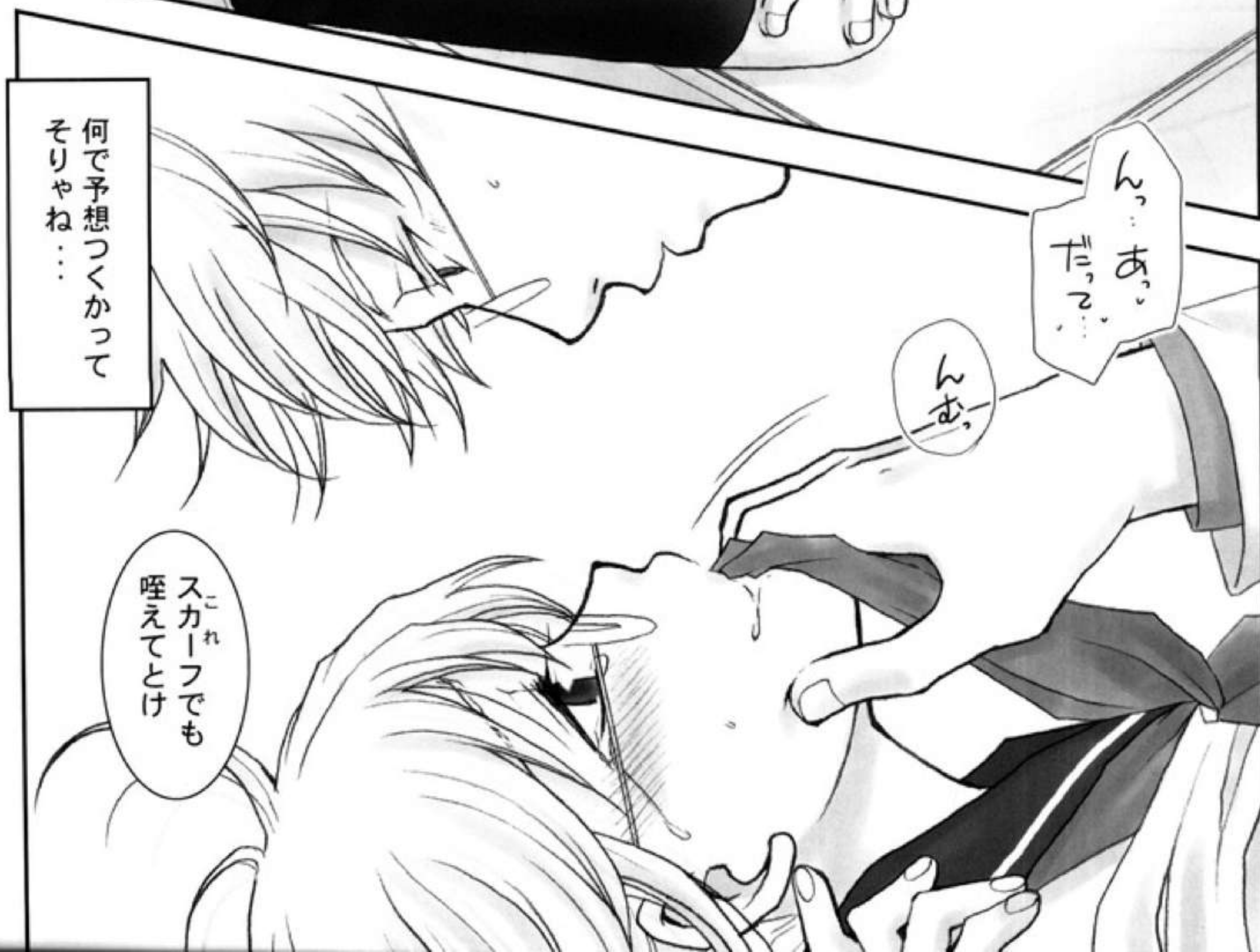
あゝ

あゝ

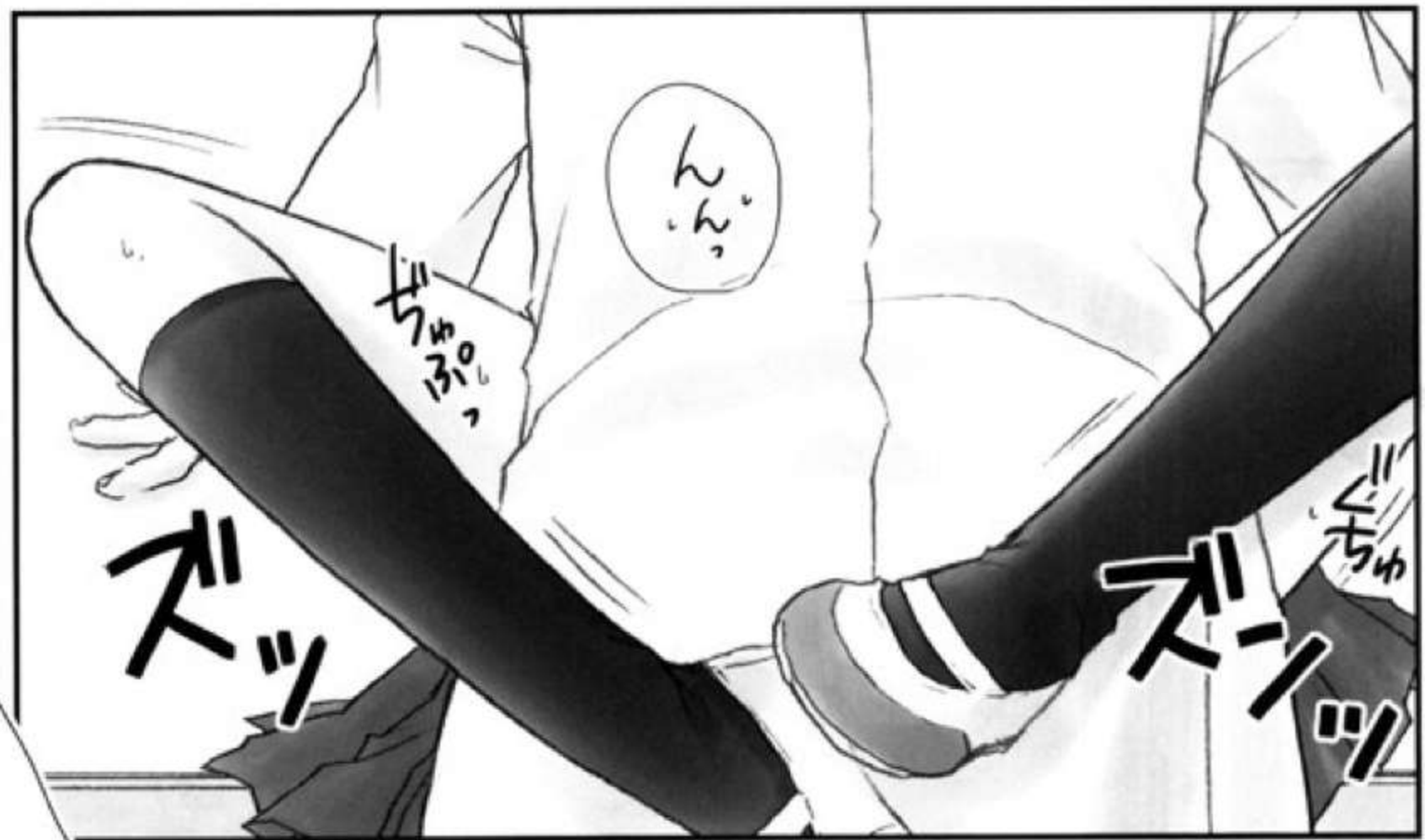
あゝ

あゝ

あゝ



スこれ
カーフでも
啜えてとけ



トク。

トク。

トク。



...



トク

トク

トク



トク



余裕ねえのは
俺も一緒.....
情けねえ.....

●おしまい●



銀八先生 × 神楽ちゃんアンソロジー

「学園天国」

発行おめでとうございます！！

口絵を担当させて頂きました、さくと申します！
この度は素敵な企画に誘って下さり、
ありがとうございました…！

今回カラー口絵（…！）を担当させて頂けるとの事で、
どうしようえろくしようか可愛くしようか、
銀八先生と神楽ちゃんはどうか絡ませるか！とか
色々悩んだ結果、趣味丸出しなかんじで
かぐちゃんを全面に押し出してしまいました。
こちらの背景になってる絵は没構図の一部です。

銀八先生はほんとにえろすーの塊です。
神楽ちゃんも銀さん大好きだしな！！
保健室でいちゃいちゃしてればいいよ！
体操服プレイでもスク水プレイでも
放課後プレイでもしてればいいよ！！！！
と思います。

皆さんの素敵3Zエロスが見れるのを
楽しみにしてますー！さくでした。

今回主宰をさせて頂きました、坂田あかりと申します。

銀神大好き、その中でもろ乙設定がたまらなく好き、更にエロ好き
ということでの本を作るに至った訳ですが、企画にあたって執筆者
様方に「出来る限り男性向けで」と、普段女性向けな方が大半の中
無茶なお願いをしました。しかし結果どうですか、素晴らしいエロっ
ぶり、変態先生っぶり、先生と生徒っていいよね…（じゅるり…
…おっと、涎が…（おい

無茶苦茶な主宰の依頼を受けて素晴らしい原稿を下さった執筆者様
この本を手にとって下さった方、製作中協力してくれた方すべての方
に感謝して、主宰からの言葉とさせて頂きます。

ありがとうございました^^

もうホント、皆の原稿エロ過ぎてたまらん…(^o^)

<http://akari.sakura.ne.jp/gintama>

銀神妄想脳内垂流板

銀神、兄神、神楽堂





学園天国

発行日◆2008/08/15

編集発行◆札東ジェンガ

印刷◆サンライズ様

<http://akari.sakura.ne.jp/gintama/get>

学園天国



旭ピオ



内橋薫



荻下いつき



ケー



サイトーマミム



坂入太郎



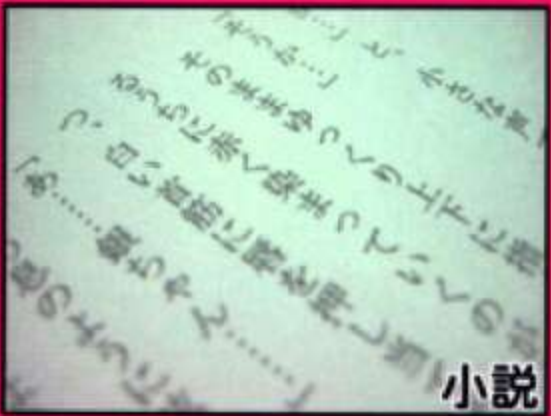
橘ロツテ



告清亘



ヒガシエリコ



小説

びよん



ヒワ



マヨ



由宇



絵

さく



カット協力

麦ちやこ



主催 / 坂田あかり



2008/08/15発行 銀魂≠3年Z組銀八先生 銀八×神楽 only

※18歳未満の方は購読できません※

※本文は白黒一色刷りです※

